

【資料】

岡山県における感染症の患者発生状況について (2020年) Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Okayama Prefecture (2020)

北村雅美, 木村英治, 望月 靖

KITAMURA Masami, KIMURA Hideharu, MOCHIZUKI Yasushi

[キーワード：感染症, サーベイランス, 全数把握感染症, 定点把握感染症]

[Key words : Infectious disease, Epidemiological surveillance, Notifiable disease surveillance, Sentinel surveillance]

1 感染症発生動向調査

1.1 調査方法

感染症発生動向調査事業実施要綱（平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。）に基づき、各関係機関から報告された患者情報を感染症サーベイランスシステム（NESID：National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease）により、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告しており、集計された全国の情報と比較しつつ、岡山県内の発生状況を解析した。

1.2 届出対象感染症

対象となる感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。）により定められており、一類～五類感染症及び指定感染症に分類されている。一類～四類感染症及び指定感染症は全数把握対象に、五類感染症は、全数把握対象と定点把握対象に区分されている（表1）。

1.2.1 全数把握感染症

全数把握感染症とは、発生数が希少、又は周囲への感染拡大防止を図るため、発生した全ての患者を把握することが必要な感染症で、医師は該当する患者を診断したときには、最寄りの保健所へ届出することが、感染症法上規定されている。

1.2.2 定点把握感染症

定点把握感染症とは、発生動向の把握が必要な感染症のうち、患者数が多数で、その全てを把握する必要がないもので、指定された医療機関（定点）から発生状況が週単位又は月単位で届出されることになっている。定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されており、岡山県の場合、小児科定点54、内科定点30、眼科定点12、性感染症定点17、基幹定点5が設定され、小児科定点と内科定点をあわせて、インフルエンザ定点84となっている。

定点把握感染症については、全国や過去のデータの比較においては、全ての定点医療機関から報告される患者数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり報告数」という。）、又は年間の患者報告数を定点医療機関数で割った値（以下「定点あたり累積報告数」という。）を用いる。

1.3 調査期間

全数把握感染症（表1-1）及び月報告の定点把握感染症（表1-2-②）の調査期間は、2020年1月1日～12月31日、週報告の定点把握感染症（表1-2-①）については、2020年第1週～第53週（2019年12月30日～2021年1月3日）とした。なお、インフルエンザは、流行時期にあわせて、第36週～翌年第35週（2019年9月2日～2020年8月30日）とした（感染性胃腸炎は、グラフのみ第36週～翌年第35週）。また、いずれの感染症も診断日を基準とした。なお、「感染原因・経路」については、「推定」も含むものとする。

2 結果

2.1 全数把握感染症の発生状況（表2, 3）

2.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

2.1.2 二類感染症

二類感染症は、結核の届出があった。急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。

i) 結核

結核は252例の届出があった。2019年までは300例以上の届出が続いていたが、2020年は過去5年間と比較し

で最も少なかった（図1）。病型は、患者156例、無症状病原体保有者94例、疑似症患者1例、死亡者1例であり、届出のうち7例が医療・介護関係者（医師、看護師、介護職など）であった。性別は男性137例、女性115例で、年齢階級別（図2）では60歳以上の高齢者が67.1%を占めていた。また、昨年と同様に、20歳代の男性で届出が多く見られた（24例、9.5%）。なお、近年全国的に増加傾向にあった20歳代の若年層での新登録患者数は昨年と同様に多く（2019年は14,460例中1,164例（8.0%）、2020年は12,739例中1,027例（8.1%））、引き続き、同年代における外国生まれの患者の発生（2019年、2020年の新登録患者における割合はそれぞれ73.1%、71.3%）が注目される¹⁾。

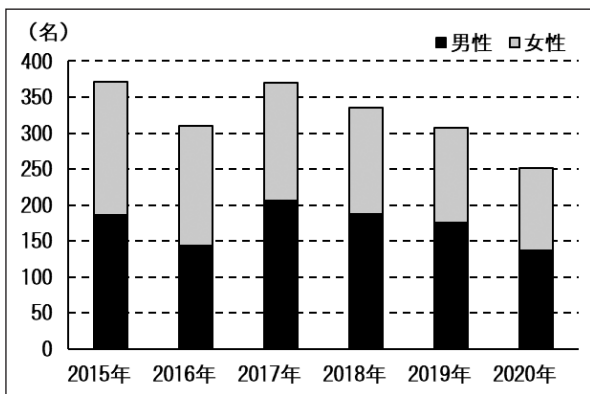


図1 結核 年次別発生状況

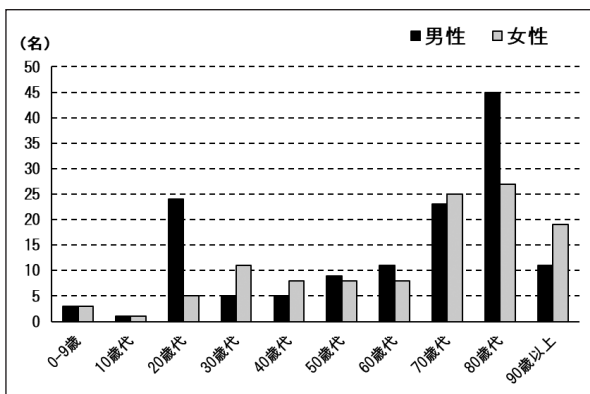


図2 結核 年齢階級別発生状況

2.1.3 三類感染症

三類感染症は、腸管出血性大腸菌群感染症、パラチフスの届出があった。コレラ、細菌性赤痢、腸チフスの届出はなかった。

i) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は102例の届出があり、過去5年と比較して最も多かった（図3）。病型は、患者83例、無症状病原体保有者19例であった。性別は男性53例、

女性49例で、年齢階級別では、0～9歳（25例）、20歳代（19例）、30歳代（16例）の順に多かった。月別発生状況は6月及び10月（各22例ずつ）、9月（21例）、7月（16例）の順に多くなっており、梅雨～秋にかけて届出が多かった（図4）。血清群別の内訳は、図5のとおりであった。なお、血清群別の「その他」の内訳は、O103及びO111が各2例ずつ、O91及びO158が各1例ずつの6例である。

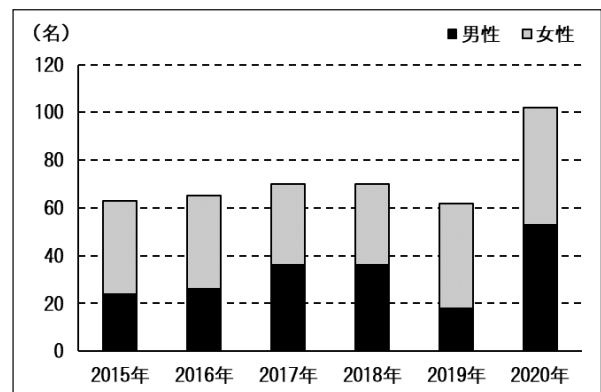


図3 腸管出血性大腸菌感染症 年次別発生状況

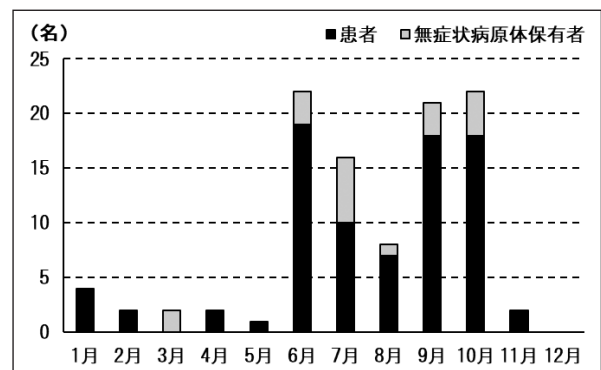


図4 腸管出血性大腸菌感染症 月別発生状況

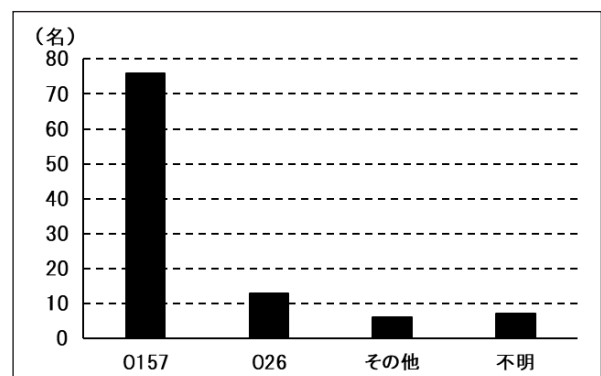


図5 腸管出血性大腸菌感染症 O血清群発生状況

ii) パラチフス

パラチフスは1例の届出があり、50歳代の男性であった。推定感染地域は、国外（ミャンマー）で、感染原因・

経路は経口感染と推定された。

2.1.4 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、重症熱性血小板減少症候群、つつが虫病、日本紅斑熱、日本脳炎、レジオネラ症の届出があった。その他の届出はなかった。

i) E型肝炎

E型肝炎は4例の届出があり、30歳代の女性2例と、70歳代の男性2例であった。推定感染地域は、全て国内（県内）で、感染原因・経路は3例は経口感染、1例は不明であった。経口感染のうち1例は、イノシシ肉を喫食していた。

ii) A型肝炎

A型肝炎は1例の届出があり、60歳代の男性であった。推定感染地域は、国内（県内）で、感染原因・経路は経口感染と推定された。

iii) 重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は7例の届出があり、前年（3例）から増加した（図6）。感染症法で全数把握疾患となった2013年以降で最多となった。2013年からの累計報告数は17例となった。5月と、7月から10月にかけて届出があり、性別は男性4例、女性3例で、年齢階級別では70歳代が4例、50歳代、60歳代及び90歳代が各1例ずつであった。推定感染地域は全て国内（県内）で、感染原因・経路は、4例は動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われ（1例はマダニと確定、動物からの感染が疑われる例が2例、野外での作業歴がある例が2例（重複あり））、3例は不明であった。

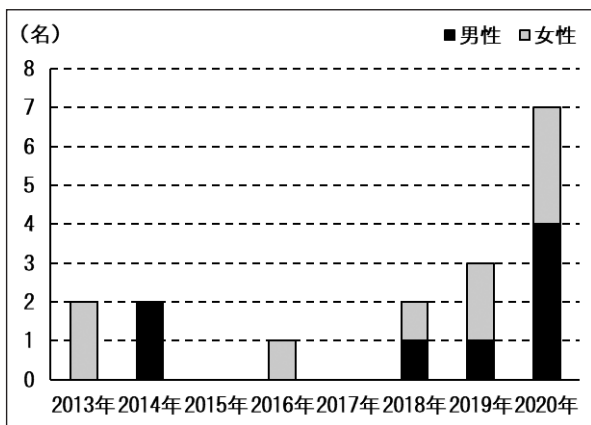


図6 重症熱性血小板減少症候群 年次別発生状況

iv) つつが虫病

つつが虫病は3例の届出があり、前年と同数であった。1月（1例）と10月（2例）に届出があり、50歳代、60歳代及び80歳代（各1例ずつ）の男性であった。推定感

染地域は、全て国内（県内）であった。

v) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は11例の届出があり、前年（3例）から増加した。2009年の県内初の届出以降で最多となった（図7）。2009年からの累計報告数は45例となった。10月（4例）、7月及び8月（各3例ずつ）、5月（1例）に届出があり（図8）、性別は男性6例、女性5例で、年齢階級別では60歳代及び80歳代が各4例ずつ、70歳代が3例であった。推定感染地域は、10例が国内（県内）、1例が不明で、マダニの刺し口が7例で確認された。

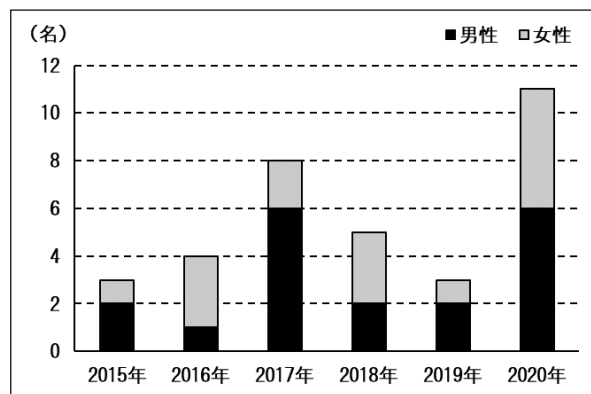


図7 日本紅斑熱 年次別発生状況

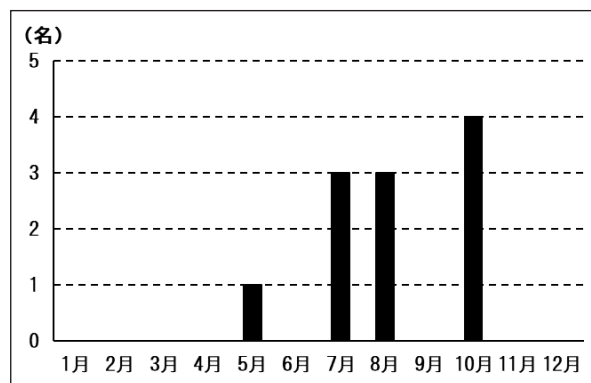


図8 日本紅斑熱 月別発生状況

vi) 日本脳炎

日本脳炎は2例の届出があった。80歳代の男性と60歳代の女性（うち1例は届出時点で死亡）で、2例とも10月に届出があった。2例とも遺伝子型はI型であった。わが国では1960年代までは日本脳炎患者は年間1,000例を超えていたが、1954年から日本脳炎ワクチンの接種が開始されたことから、1990年代以降は毎年10例程度と少なくなっている（I型が主、1980年代まではⅢ型のみ²⁾）。近年の患者の大半は抗体保有率の低い60歳以上の高齢者である。岡山県では、1999年の感染症発生動向調査開始以降では、2000年（1名）、2002年（1名）、2005年（2

名), 2013年(1名), 2016年(1名)に届出があった。
vii) レジオネラ症

レジオネラ症は78例の届出があり, 届出が急増した2018年(83例)と同程度となった(図9)。病型は肺炎型が75例, ポンティアック熱型が3例であった。性別は男性65例, 女性13例で, 年齢階級別では60歳代(28例), 70歳代(20例), 50歳代及び80歳代(各11例ずつ)の順に多かった(図10)。感染原因・経路は, 水系感染18例, 塵埃感染4例, その他8例, 不明49例であった(重複あり)。水系感染のうち, 入浴施設の利用が6例, 加湿器の使用が2例で確認された。塵埃感染のうち, 2例で家庭菜園等での農作業の履歴が確認された。

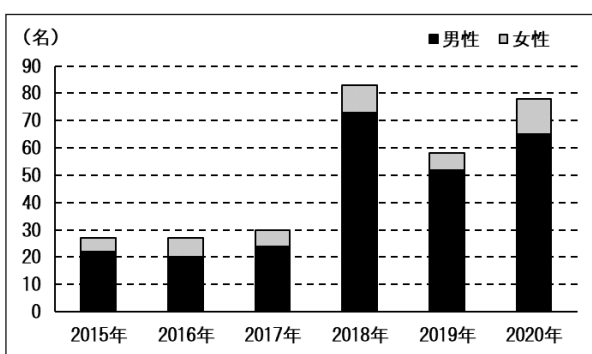


図9 レジオネラ症 年次別発生状況

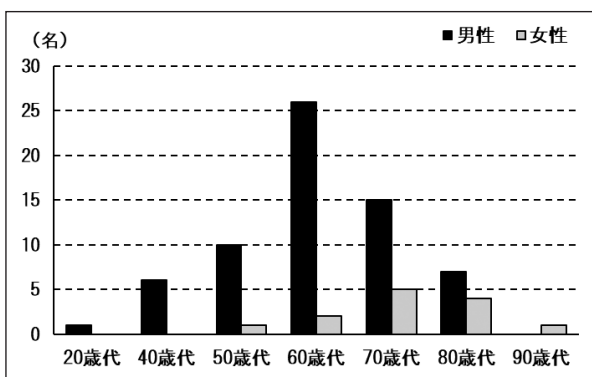


図10 レジオネラ症 年齢階級別発生状況

2.1.5 五類感染症(全数把握対象)

五類感染症では, 16の感染症で届出があった。クリプトスポリジウム症, ジアルジア症, 侵襲性髄膜炎菌感染症, 先天性風しん症候群, バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症, バンコマイシン耐性腸球菌感染症, 麻しん, 薬剤耐性アシネトバクター感染症の届出はなかった。

i) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は17例の届出があり, 前年(14例)から増加した(図11)。病型は全て腸管アメーバ症であった。性別は男性15例, 女性2例で, 年齢階級別では50歳代(8例), 40歳代(4例), 70歳代(3例), 60歳代(2

例)の順に多く, 患者は全て40歳以上の成人であった(図12)。推定感染地域は県内6例, 県外1例, 都道府県不明1例, 不明9例であった。感染原因・経路は性的接触5例, 飲食物からの経口感染3例の他は不明であった。

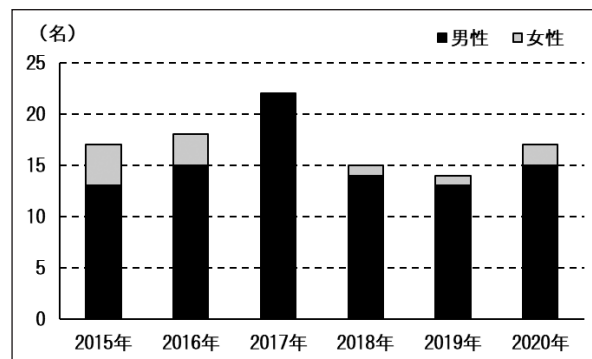


図11 アメーバ赤痢 年次別発生状況

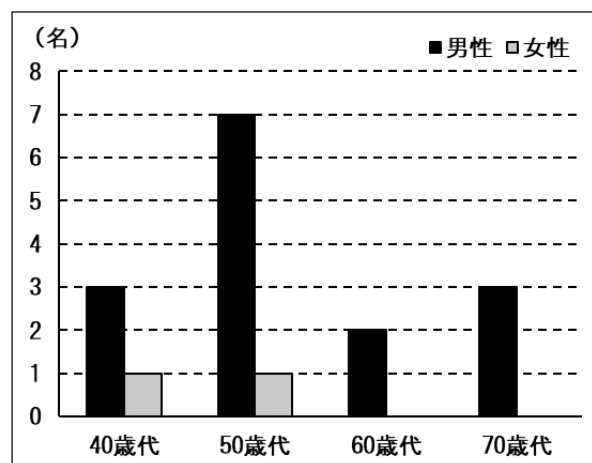


図12 アメーバ赤痢 年齢階級別発生状況

ii) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)

ウイルス性肝炎は10例の届出があり, 前年(12例)から減少した(図13)。性別は男性7例, 女性3例であった。年齢階級別では20歳代及び40歳代(各3例ずつ), 50歳代(2例), 30歳代及び60歳代(各1例ずつ)の順

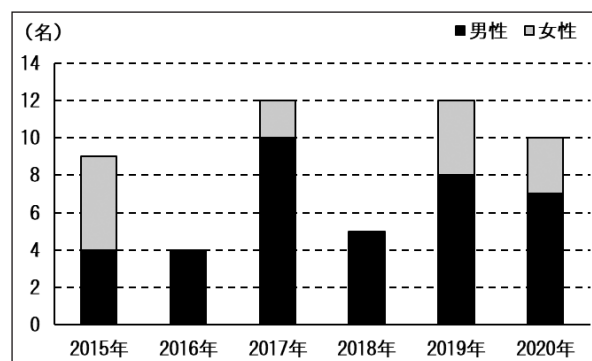


図13 ウイルス性肝炎 年次別発生状況

に多かった(図14)。病型は、B型が6例、その他が4例(EB(Epstein-Barr)ウイルス3例及びサイトメガロウイルス1例)であった。推定感染地域は国内が9例(県内5例、県外1例、都道府県不明3例)、不明が1例で、感染原因・経路は、性的接触4例、針等の鋭利なものの刺入による感染1例、不明5例であった。

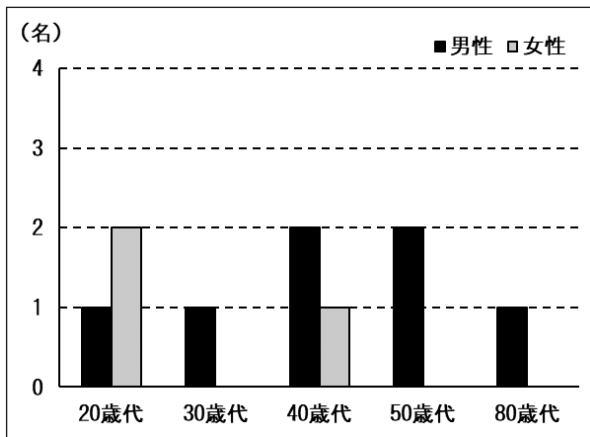


図14 ウイルス性肝炎 年齢階級別発生状況

iii) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は32例の届出があり、前年と同数であった(図15)。性別は男性18例、女性14例で、年齢階級別(図16)では70歳代(12例)、80歳代(8例)、90歳代(6例)の順に多く、60歳以上で87.5%を占めていた。感染原因・経路は、以前からの保菌(15例、うち尿路・尿(4例)が最多)、院内感染及び手術部位感染(各3例ずつ)の順に多かった。検出された菌種は、*Escherichia coli*(8例)、*Enterobacter aerogenes*(6例)、*Enterobacter cloacae*(5例)、*Klebsiella pneumoniae*(3例)、*Serratia marcescens*及び*Providencia rustigiamii*(各2例ずつ)の順に多かった。

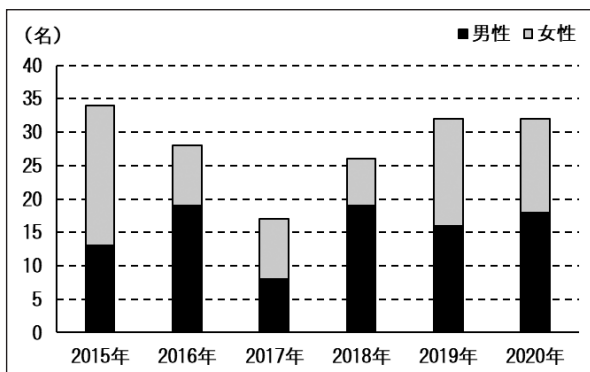


図15 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年次別発生状況

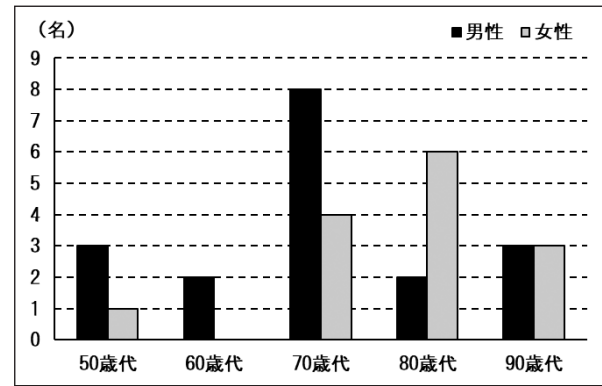


図16 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別発生状況

iv) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)

急性弛緩性麻痺は1例の届出があり、幼児女性であった。ライノウイルス(2014年に米国で流行した急性弛緩性麻痺の原因とされたエンテロウイルスD68と類似したウイルス学的性状を有するとされる³⁾)が検出された。

v) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

急性脳炎は6例の届出があり、前年(19例)から大幅に減少した(図17)。検出された病原体は、インフルエンザウイルスA(3例)、アデノウイルス(1例)、病原体不明(2例)であった。性別は男性2例、女性4例で、年齢階級別では10歳未満(5例)、10歳代(1例)であった。

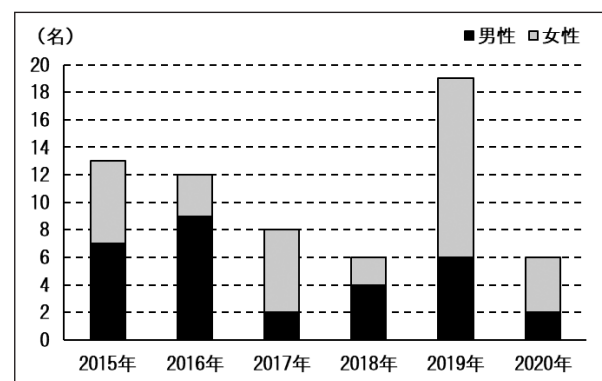


図17 急性脳炎 年次別発生状況

vi) クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は1例の届出があり、70歳代の男性であった。病型は、孤発性プリオン病(古典型)であった。

vii) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は7例の届出があり、前年と同程度であった(図18)。性別は男性3例、女性

4例で、年齢階級別では80歳代（4例）、70歳代（2例）、90歳代（1例）の順に多く、感染原因・経路は、創傷感染2例、不明5例であった。

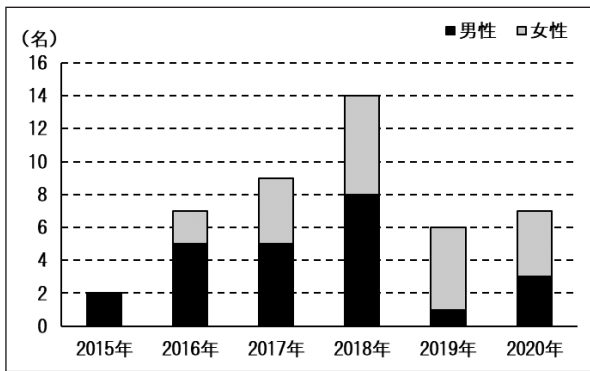


図18 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年次別発生状況

viii) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は15例の届出があり、前年（10例）から増加した（図19）。性別は男性14例、女性1例で、年齢階級別では20歳代及び40歳代（各6例ずつ）が最も多かった（図20）。病型はAIDS 8例、無症候性キャリア7例であった。推定感染地域は、国内12例、国外（ブラジル）1例、不明2例であった。感染原因・経路は性的接触11例（異性間2例、同性間10例（重複あり））、不明4例であった。後天性免疫不全症候群の感染症法に基づく届出様式については、2018年1月1日から「診断時のCD4陽性Tリンパ球数（CD4値）」が記載項目として新たに追加された。CD4値は200/mm³以下になるとカリニ肺炎等の日和見感染症を発症しやすくなる⁴⁾が、2020年の届出時点でCD4値が200/mm³以下であった進行した症例が7例あり、うち5例はCD4値が50/mm³以下の免疫能の極めて低下した状況で診断された症例であった。

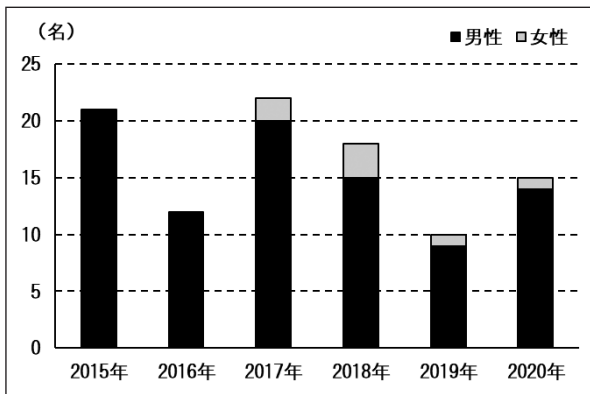


図19 後天性免疫不全症候群 年次別発生状況

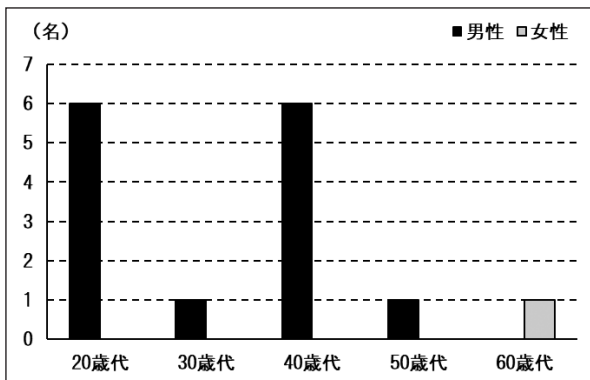


図20 後天性免疫不全症候群 年齢階級別発生状況

ix) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は1例の届出があり、50歳代女性であった。感染原因・経路は不明であった。

x) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は11例の届出があり、前年（48例）から大幅に減少した（図21）。性別は男性7例、女性4例で、年齢階級別では、0～9歳（4例）、50歳代、70歳代及び80歳代（各2例ずつ）、20歳代（1例）の順に多かった（図22）。ワクチン接種歴別でみると接種歴あり5例、接種歴なし1例、不明5例であった。

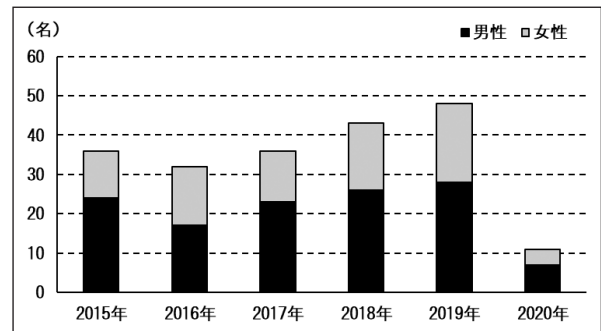


図21 侵襲性肺炎球菌感染症 年次別発生状況

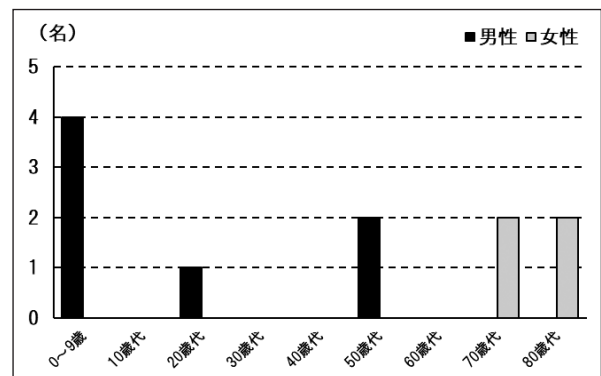


図22 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別発生状況

xi) 水痘（入院例に限る。）

水痘（入院例に限る。）は5例の届出があった。性別は男性3例、女性2例で、年齢階級別では80歳代（3例）、10歳代及び90歳代（各1例ずつ）の順に多かった。

感染原因・経路は、水痘患者との接触1例、不明4例であった。

xii) 梅毒

梅毒は162例の届出があった。過去5年間と比較すると、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった2019年(191例)からは減少したが、毎年150例を超える届出数が継続している(図23)。病型は早期顕症梅毒Ⅰ期70例、早期顕症梅毒Ⅱ期61例、晩期顕症梅毒5例、無症状病原体保有者25例、先天梅毒1例であった。性別は男性104例、女性58例で、年齢階級別では、男性は30歳代(32例)、40歳代(27例)、20歳代(16例)の順、女性は20歳代(27例)、10歳代(11例)、30歳代(8例)の順に多かった(図24)。特に女性は10歳代及び20歳代で女性全体の65.5%を占めていた。10歳代及び20歳代の女性の届出数は、年々増加傾向を示している(図25)。推定感染地域は国内147例(県内117例、県外24例、都道府県不明6例)、不明17例であった(重複あり)。感染原因・経路は、性的接触157例(異性間140例、同性間4例、詳細不明13例)、胎内・出産時1例、不明4例であった。

なお、梅毒の感染症法に基づく届出様式については、2018年1月1日から「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無(直近6か月以内)」、「HIV感染症合併の有無」、「過去の治療歴の有無」、「妊娠の有無」が記載項目として新たに追加された。「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無」については、2020年は、男性感染者(104例)のうち53例(51.0%)が性風俗産業の利用歴があり、年齢階級別では、30歳代(20例)の利用が最も多く、次いで40歳代(13例)、50歳代(9例)の順で多かった(図26)。また、女性感染者(58例)のうち16例(27.6%)が性風俗産業の従事歴があり、年齢階級別では、20歳代(8例、50.0%)が最も多かった(図27)。2019年と比較すると、女性の感染者数は減少しているが、性風俗産業従事歴の割合は増加している(2019年は17.9%)。「HIV感染症合併の有無」については、2020年は、男性感染者のうち2例(0.2%)がHIV感染症合併があり、2例とも40歳代であった。女性感染者では、HIV感染症の合併はなかった。「過去の治療歴の有無」については、男性が40歳代が2例(1年以内・直近6か月以内の性風俗産業利用歴有・HIV感染症合併無1例、1年より前・直近6か月以内の性風俗産業利用歴無・HIV感染症合併有)、女性が20歳代が1例(1年以内、直近6か月以内の性風俗産業従事歴有)で治療歴があった。「妊娠の有無」については、2020年は5例で妊娠が確認され、妊娠5週から19

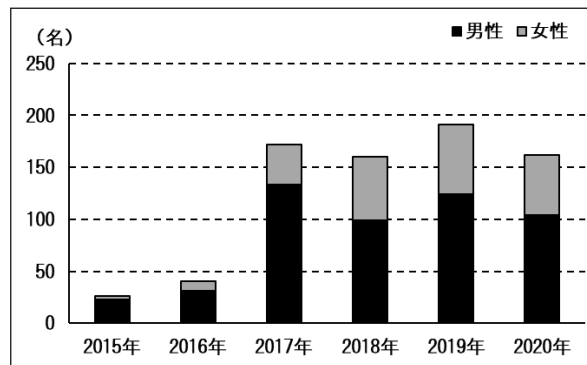


図23 梅毒 年次別発生状況

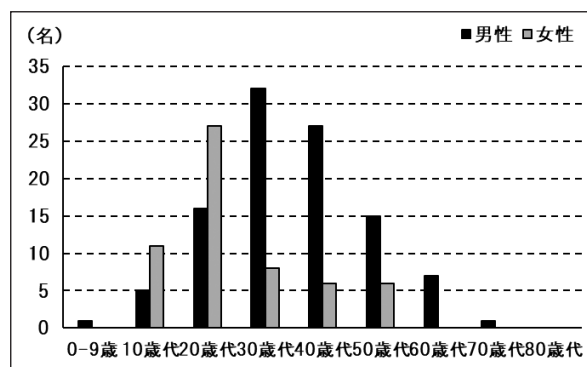


図24 梅毒 年齢階級別発生状況

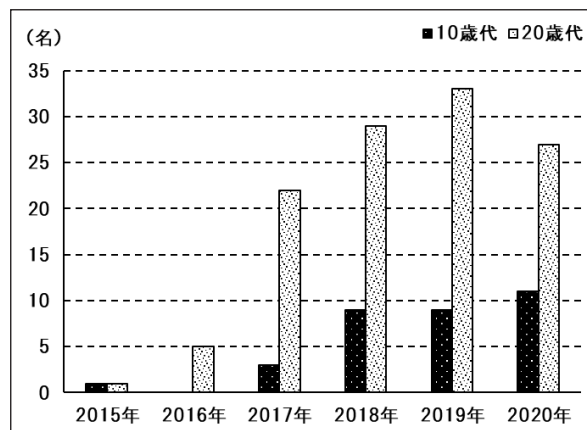


図25 梅毒 年次別(10歳代及び20歳代女性)

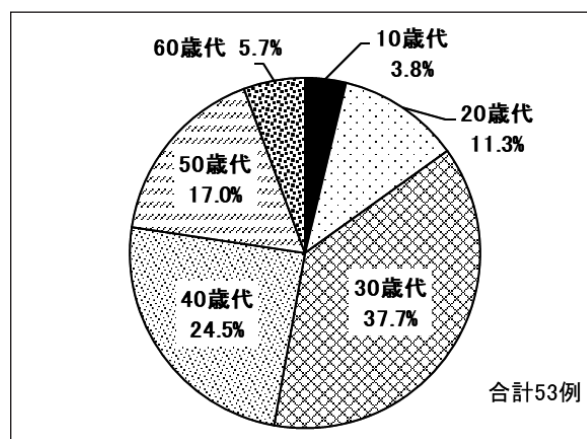


図26 梅毒 性風俗産業利用歴有(2020年, 男性)

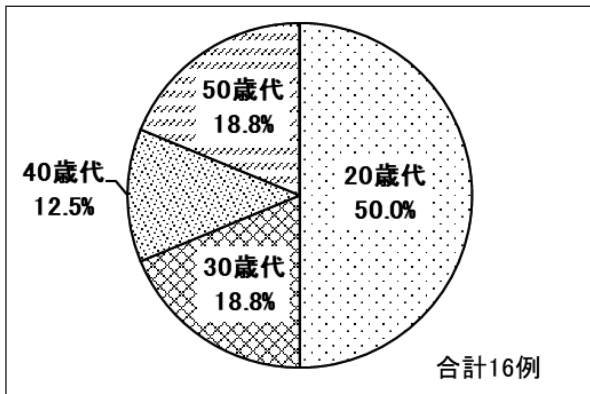


図27 梅毒 性風俗産業従事歴有 (2020年, 女性)

週で感染が判明していた。年齢階級は10歳代から20歳代であった。性風俗産業従事歴は、2例が無、3例が不明であった。4例は妊娠初期の梅毒検査で判明したと考えられた。

x iii) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は2例の届出があった。患者は70歳代の男女で、感染原因・経路は免疫不全が共通しており、うち1例は鳥類の糞などとの接触も確認された。感染地域は国内（県内）であった。

xiv) 破傷風

破傷風は、3例の届出があった。性別は男性1例、女性2例で、年齢階級別では、20歳代、30歳代、70歳代（各1例ずつ）であった。感染原因・経路は創傷感染、針等の鋭利なものの刺入による感染、不明が各1例ずつであった。

xv) 百日咳

百日咳は、92例の届出があり、昨年（428例）より大幅に減少した。感染症法で全数把握疾患となった2018年（187例）以降で最少となった。性別は男性37例、女性55例で、月別の発生状況では、2月（31例）、3月（21例）、1月（17例）の順に多かった（図28）。2019年の流行期間であった7月～9月中の届出は2020年は2例のみで、3月以降届出数が急激に減少していることから、2020年の百日咳の届出数の大幅な減少は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小中学校等の一斉臨時休校や外出自粛等で国民の行動が変化したことによるものと考えられた⁵⁾。

年次別年齢階級別では、小学生以上の届出数が2019年の349例から2020年の74例に、併せて1歳未満児についても2019年の16例（うち6か月未満児15例）から2020年の3例（うち6か月未満児2例）に大幅に減少し、（図29）全国のサーベイランスと同様の傾向を示した⁵⁾。

百日咳が全数把握対象疾患となった2018年から2020

年の累計で見ると、年齢階級別では、小学生（327例）、その他（172例）、幼児（102例）の順に多く、「その他」の中では30歳代及び40歳代がほぼ半数を占めていた。届出が多かった小学生の患者のうち、83.8%が百日咳ワクチンの接種を4回受けていた（図30）。また、重症化のリスクが高い6か月未満児では28例の届出があり、10例は同胞から、8例は祖父母、両親及びいとこからの感染が推定され、28例中8例が入院していた。

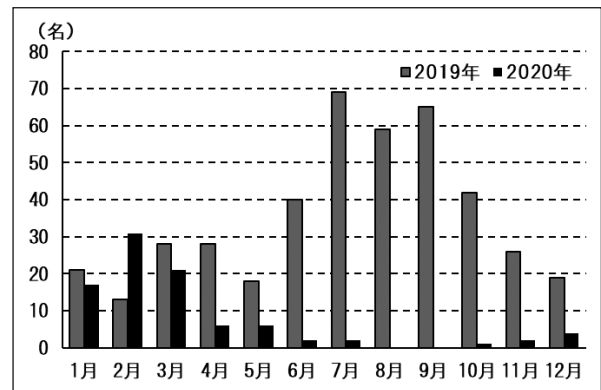


図28 百日咳 月別状況 (2019-2020年)

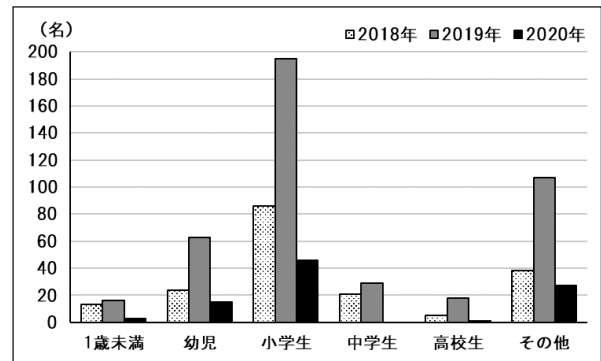


図29 百日咳 年齢階級別発生状況 (2018-2020年)

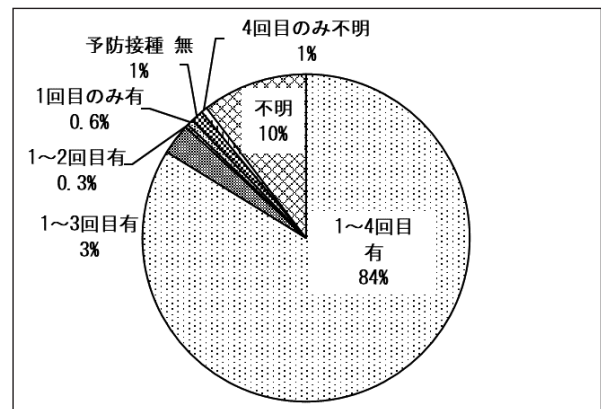


図30 百日咳 予防接種状況 (2018-2020年, 小学生)

x vi) 風しん

風しんは、1例の届出があり、40歳代の男性であった

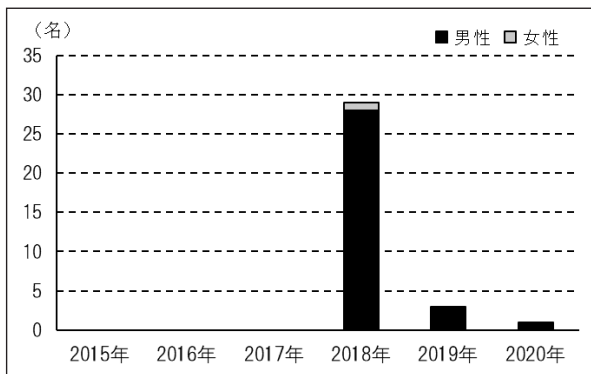


図31 風しん 年次別発生状況

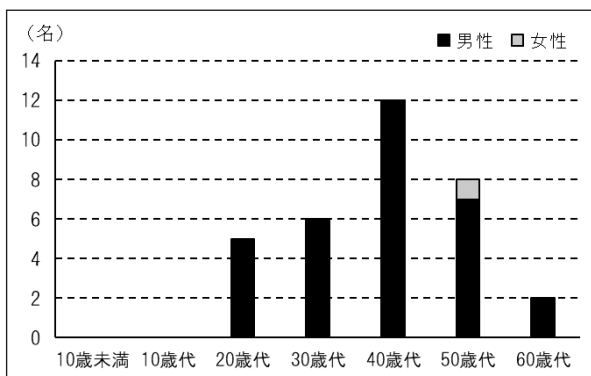


図32 風しん 年齢階級別発生状況 (2018-2020年)

(図31)。

風しんが再流行した2018年から2020年の累計で、年齢階級別発生状況(図32)を見ると、40歳代(12例)、50歳代(8例)、30歳代(6例)の順に多く、全国的に風しんの抗体保有率が低い40歳代及び50歳代に加え、ワクチンが医療機関での1回のみ個別接種であったため接種率が低いとされている30歳代の感染も見られた。

2.2 定点把握感染症(五類感染症)の届出状況

2.2.1 小児科・内科定点における週報告の感染症(表4, 5)

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち、主

な感染症については、以下のとおりである。

i) インフルエンザ(2019/20年シーズン流行のまとめ)(図33)

2019/20年シーズン(2019/9/2~2020/8/30)、岡山県の患者報告数は、16,767人であった。これは、過去5シーズンと比較して最も少なかった。2019年第36週(9/2~9/8)にシーズン初めての患者が報告され、第47週(11/18~11/24)には定点あたり報告数1.15人となり、過去10シーズンと比較すると、2009/10年シーズン(第35週)に次いで2番目に早い流行シーズン入りとなった。その後、流行は拡大したが、2020年第2週(1/6~1/12)の定点あたり24.01人をピークとして、第4週(1/20~1/26)以降、警報発令基準の30.00人を超過することなく患者数は減少に転じた。警報発令に至らなかったのは、2010/11年シーズン以来9シーズンぶりであった。その後、第13週(3/23~3/29)には0.98人、第14週(3/30~4/5)には0.45人と、2週連続して定点あたり1.00人を下回ったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を4月9日をもって解除した。全国では、2019年第37週(9/9~9/15)に一度定点あたり1.17人となったが、これは沖縄県での局地的な流行による影響を強く受けたものとされ、流行入りとは見なされなかった。その後は第39週(9/23~9/29)から定点あたり1.00人未満となったが、第45週(11/4~11/10)に定点あたり1.03人となり、全国的な流行の指標である1.00人を上回ったため、流行シーズンに入った。その後、第52週(12/23~12/29)に23.24人となり、流行のピークを迎えた。以降、患者数は若干の増減をしながら減少し、2020年第12週(3/16~3/22)には定点あたり0.54人となり、1.00人を下回った。年齢階級別では10~14歳が17.7%と最も高かった。2018/19年シーズンと比較すると、7歳~14歳での割合が増加した。

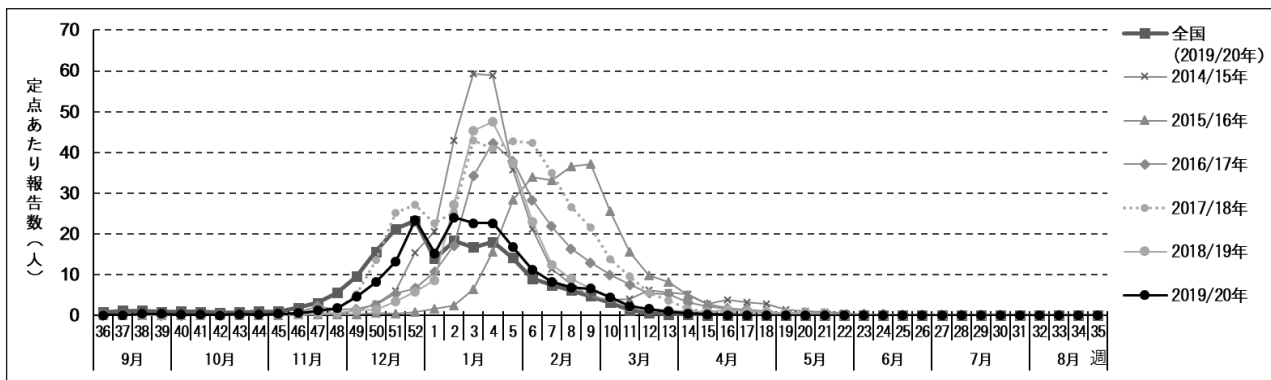


図33 インフルエンザ 発生状況

2019/20年シーズンに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは37株であった。その内訳は、AH1pdm09型27株（73.0%）が最も多く、次いでB型9株〔全てビクトリア系統〕（24.3%）、AH3亜型1株（2.7%）であった。なお、2018/19年シーズンは1月初旬までは2種類のA型（AH1pdm09型及びAH3亜型）がほぼ同程度流行し、1月中旬以降はAH3亜型が主流となった。また、3月下旬からB型（ビクトリア系統）が増え始め、4月下旬まで検出された。

ii) RSウイルス感染症（図34）

RSウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が3.34人であり、前年（30.96人）から大幅に減少した。流行は認められず、年間を通して全国と同様に推移した。年齢階級別では2歳以下の割合が全体の83.9%を占めた。

iii) 咽頭結膜熱（図35）

咽頭結膜熱は、定点あたり累積報告数が12.24人であり、前年（23.06人）から減少した。年間を通して全国とほぼ同様に推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の90.5%を占めた。

iv) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（図36）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたり累積報告数が29.69人であり、前年（68.46人）から大幅に減少した。全国と比較すると、1月から2月の間のピークがほぼ無く、年間を通して低いレベルで推移した。年齢階級別では、6歳以下の乳幼児の割合が全体の63.3%を占めた。

v) 感染性胃腸炎（図37）

感染性胃腸炎は、定点あたり累積報告数が161.07人であり、前年（295.50人）から減少した。1月にピークがあり（第4週、9.11人）、その他はほぼ横ばいで推移した。全国と比較すると、年間を通して若干高めに推移した。

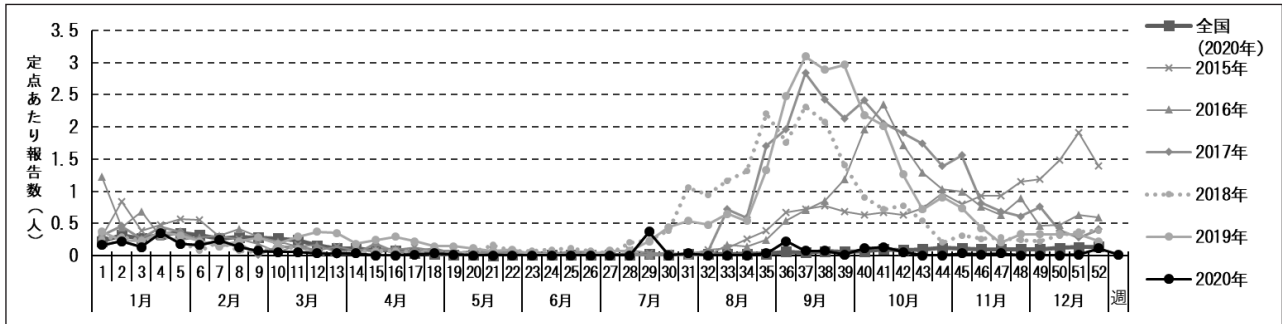


図34 RSウイルス感染症 発生状況

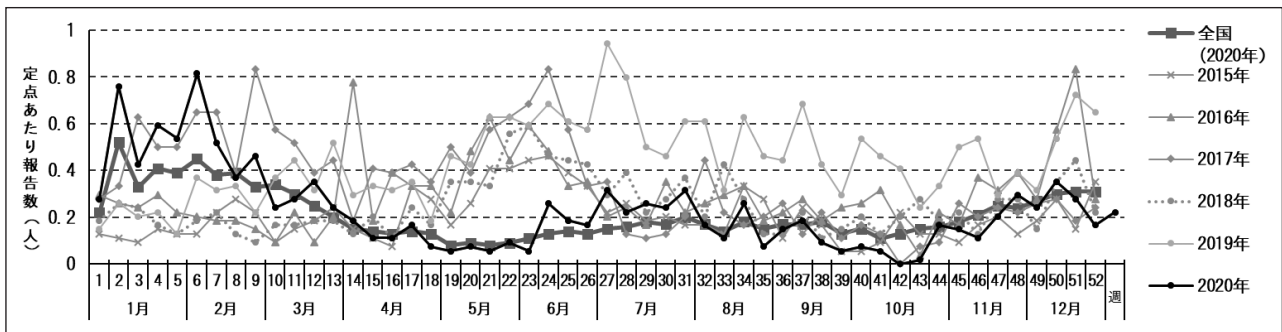


図35 咽頭結膜熱 発生状況

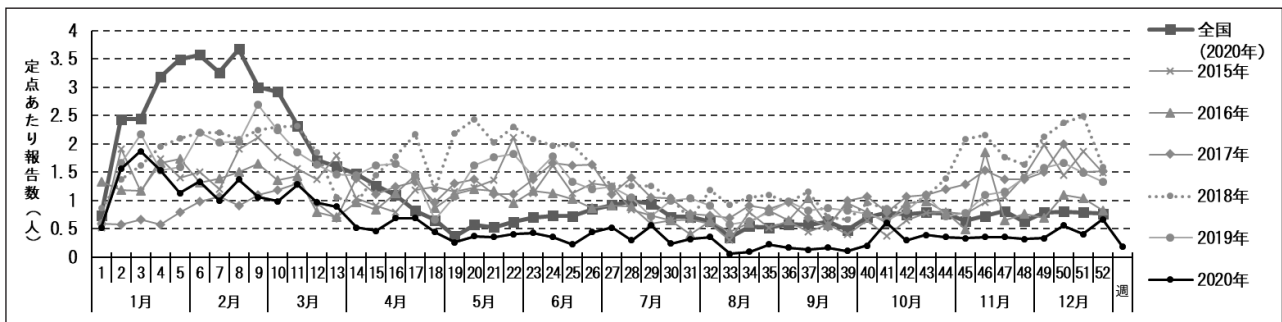


図36 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の58.6%を占めた。

vi) 水痘 (図38)

水痘は、定点あたり累積報告数が7.74人であり、前年(11.69人)から減少した。過去5年間と比較すると、最も少なかった。年間を通して全国とほぼ同様に推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の55.5%を占めた。

vii) 手足口病 (図39)

手足口病は、定点あたり累積報告数が8.04人であり、前年(116.43人)から大幅に減少した。全国とほぼ同様に推移した。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の53.9%を占めた。手足口病は隔年で流行する傾向があることから、2020年は流行が予測されたが、大きな流行は見られなかった。

viii) 伝染性紅斑 (図40)

伝染性紅斑は、定点あたり累積報告数が6.11人であり、前年(15.30人)から大幅に減少した。全国では、年間を通じて定点あたり報告数0.40~1.00人の間を推移したが、岡山県でも同様に、年間を通して低いレベルで推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の75.5%を占めた。

ix) 突発性発しん (図41)

突発性発しんは、定点あたり累積報告数が14.63人であり、前年(13.94人)とほぼ同数であった。年間を通して全国より低めに推移した。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の83.7%を占めた。

x) ヘルパンギーナ (図42)

ヘルパンギーナは、定点あたり累積報告数が15.07人であり、前年(24.37人)から減少した。全国では、年

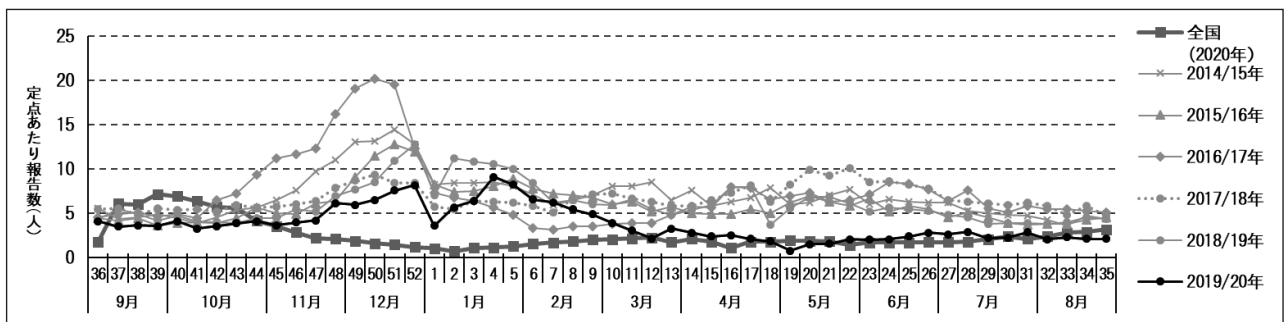


図37 感染性胃腸炎 発生状況

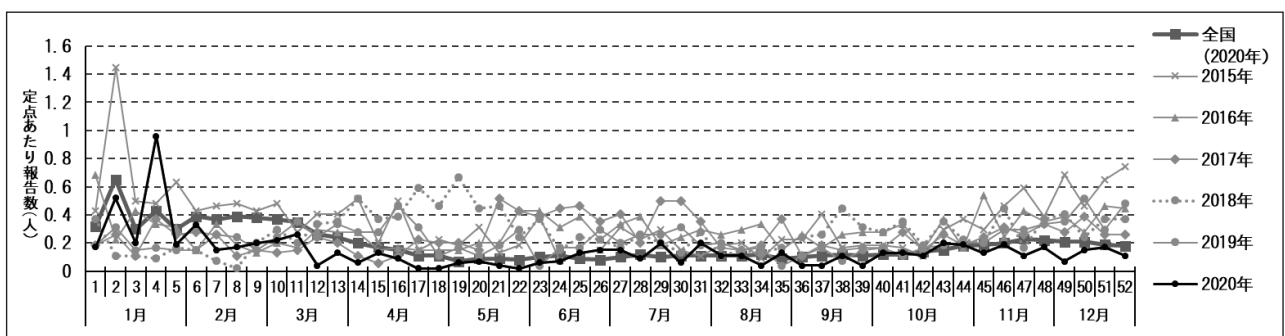


図38 水痘 発生状況

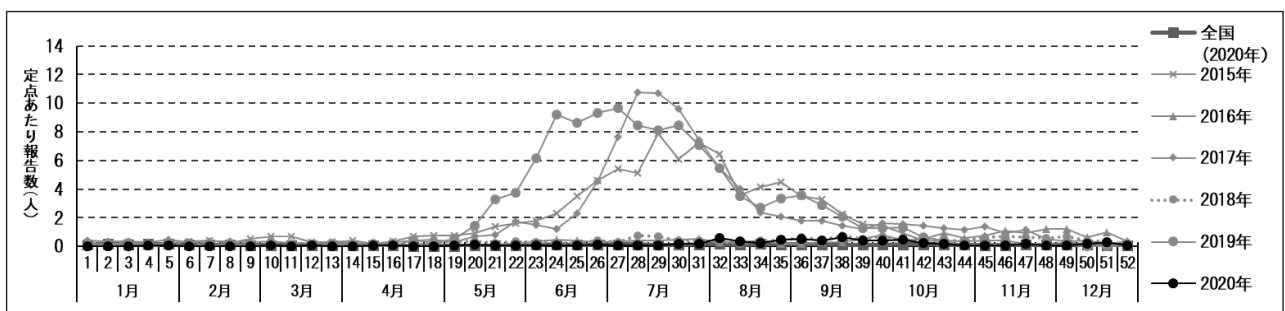


図39 手足口病 発生状況

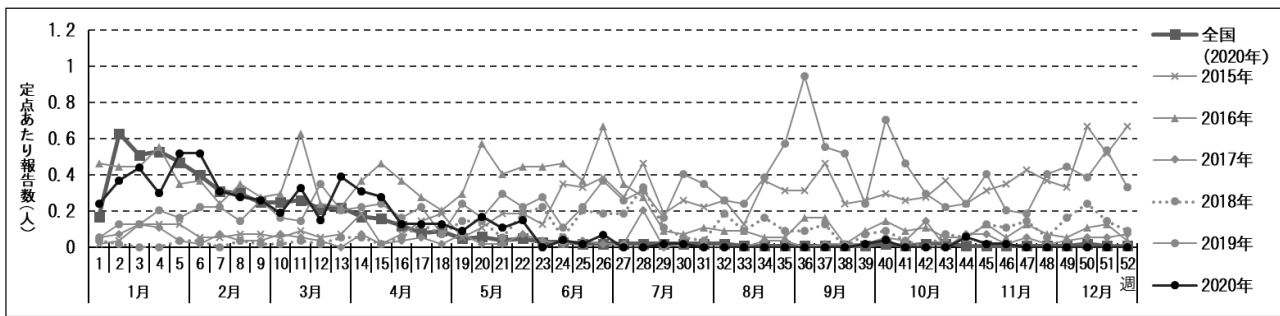


図40 伝染性紅斑 発生状況

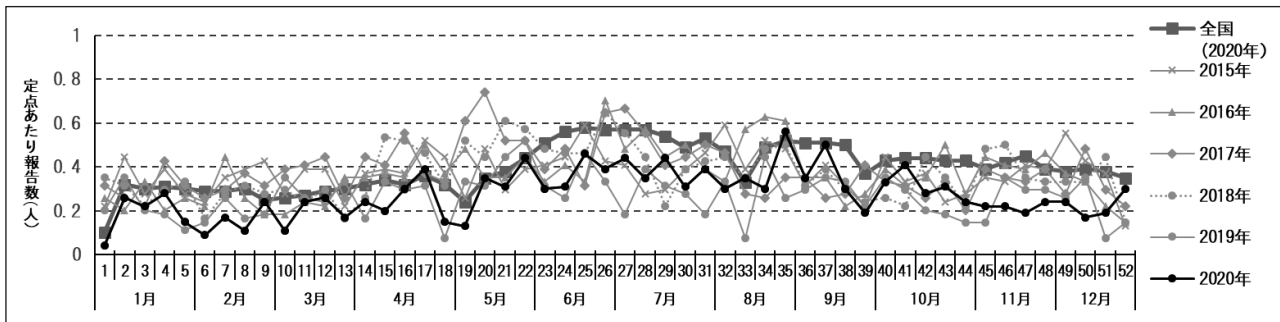


図41 突発性発しん 発生状況

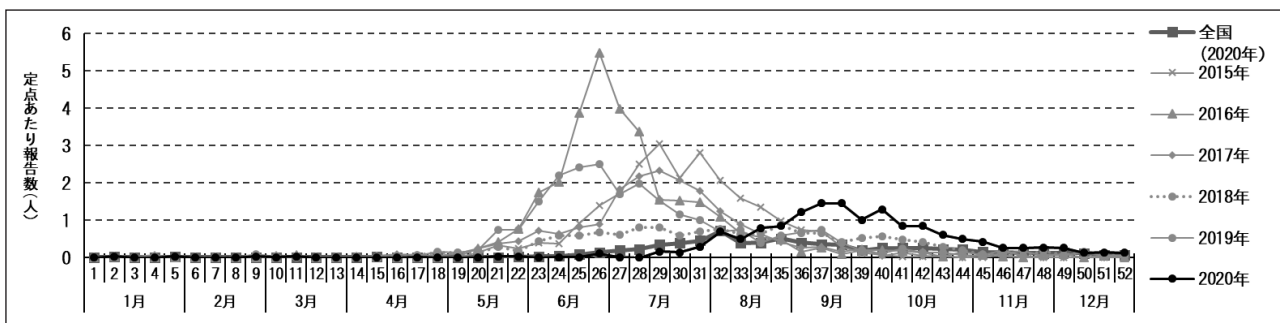


図42 ヘルパンギーナ 発生状況

間を通して低いレベルで推移したが、岡山県では9月に流行のピーク（第37週及び第38週，1.46人）があった。年齢階級別では1歳以下（45.5%），2歳（23.2%），3歳（11.4%）の順で多かった。

xi) 流行性耳下腺炎（図43）

流行性耳下腺炎は、定点あたり累積報告数が2.61人であり、前年（3.52人）から減少した。年間を通して全国とほぼ同様に低いレベルで推移した。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の65.2%を占めた。

2.2.2 眼科定点における週報告の感染症（表4，5）

i) 急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は、定点あたり累積報告数が0.42人であり、前年（1.17人）から大幅に減少した。

ii) 流行性角結膜炎（図44）

流行性角結膜炎は、定点あたり累積報告数が8.34人で

あり、前年（24.25人）から大幅に減少した。年齢階級別では、例年多く報告される9歳以下では5名，5.0%（2019年は74名，25.4%）と激減し，40歳代（22.0%），30歳代（21.0%）で多く報告された。

2.2.3 基幹定点における週報告の感染症（表4，5）

i) 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）

細菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が1.40人であり、前年（2.60人）から減少した。

ii) 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が0.40人であり、前年（1.40人）から減少した。

iii) マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、定点あたり累積報告数が3.80人であり、前年（5.60人）から減少した。

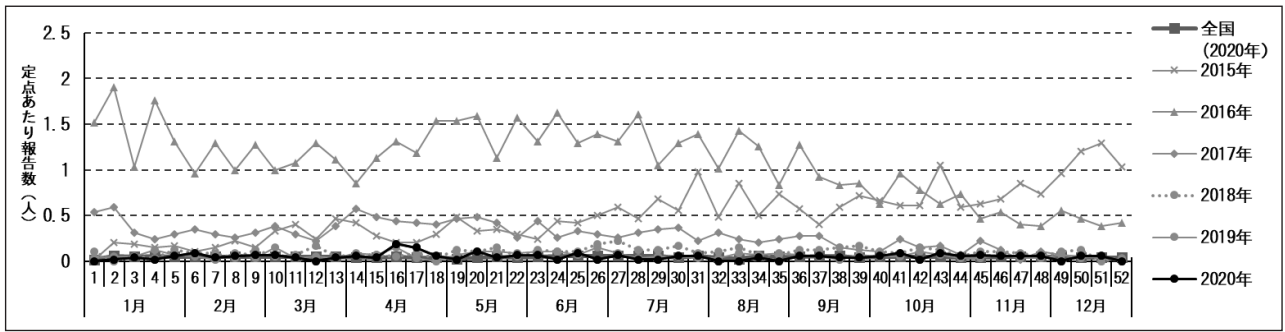


図43 流行性耳下腺炎 発生状況

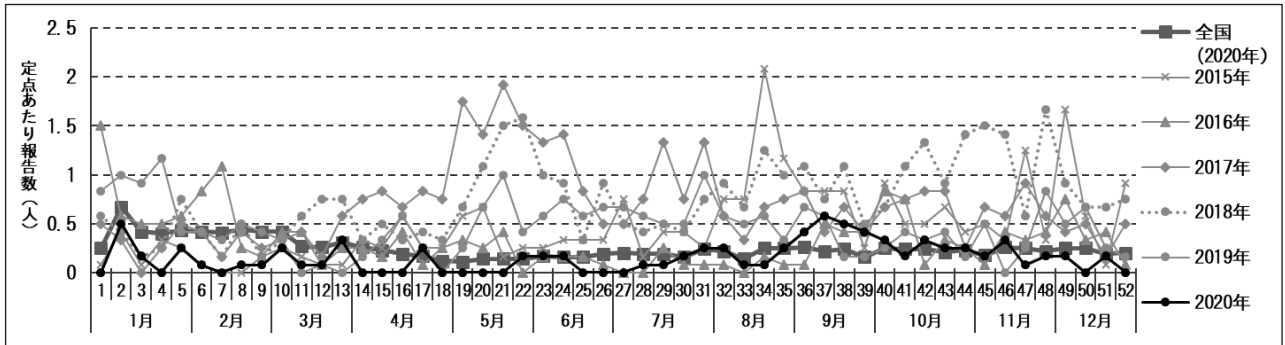


図44 流行性角結膜炎 発生状況

iv) クラミジア肺炎（オウム病を除く。）

クラミジア肺炎（オウム病を除く。）は、定点あたり累積報告数が0人であり、前年（0.20人）から減少した。

v) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）は、定点あたり累積報告数が0.20人であり、前年（9.20人）から大幅に減少した。

2.2.4 性感染症定点における月報告の感染症（表6, 7）

i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、定点あたり累積報告数が18.12人であり、前年（18.35人）とほぼ同数であり、昨年と同様、全国と比較して少ない報告数であった（図45）。性別では男性15.3%，女性84.7%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった（図46）。

ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が4.41人で、前年（3.88人）からわずかに増加した。全国と比較して少ない報告数であった（図47）。性別では男性8.0%，女性92.0%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった（図48）。

iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が

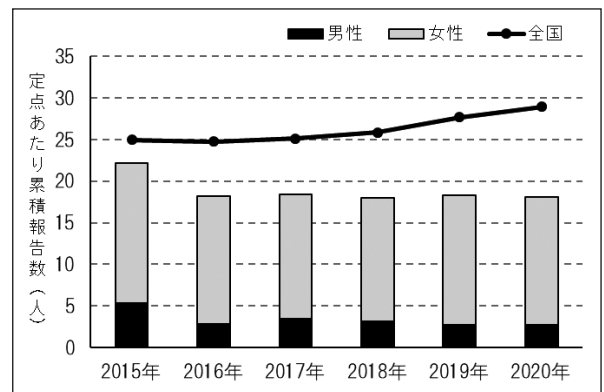


図45 性器クラミジア感染症 年次別発生状況

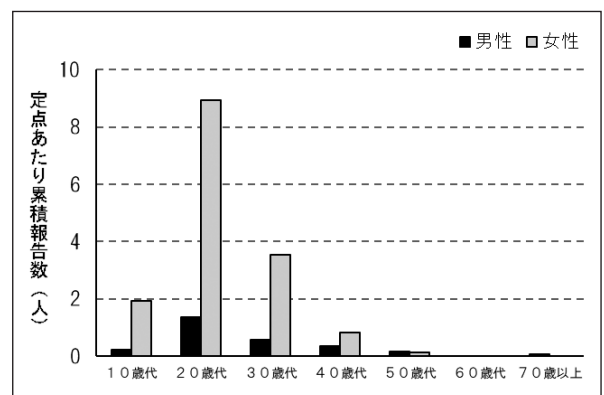


図46 性器クラミジア感染症 年齢階級別発生状況

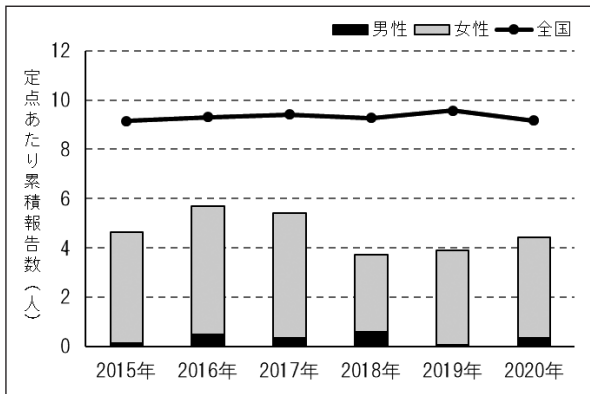


図47 性器ヘルペスウイルス感染症 年次別発生状況

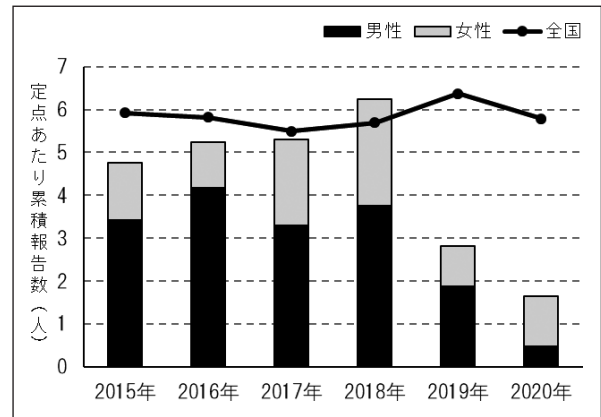


図49 尖圭コンジローマ感染症 年次別発生状況

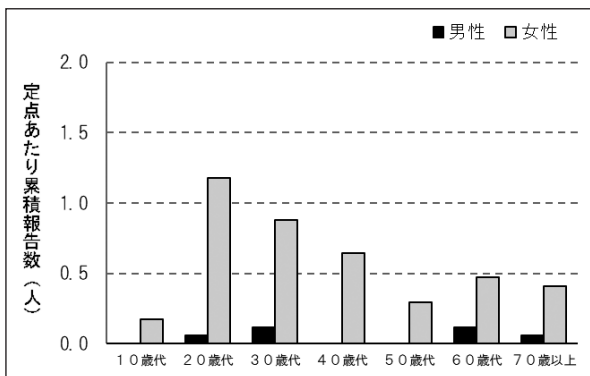


図48 性器ヘルペスウイルス感染症 年齢階級別発生状況

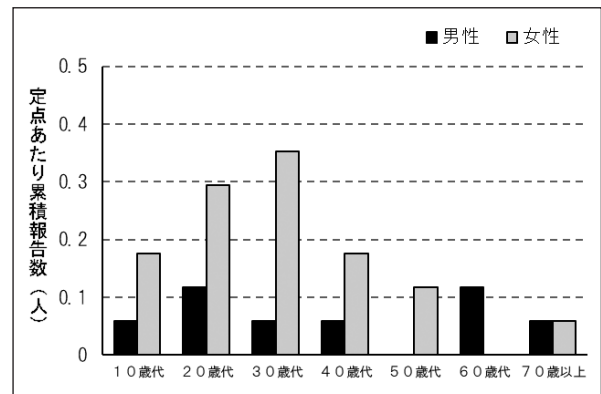


図50 尖圭コンジローマ感染症 年齢階級別発生状況

1.65人で、前年（2.82人）から減少した。過去5年間と比較して最も少なかった（図49）。性別では男性28.6%，女性71.4%で、女性の割合が多かった。年齢階級別では、20歳代～30歳代が多かった（図50）。

iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が2.76人であり、前年（3.59人）から減少した（図51）。2014年から減少傾向にあり、全国と比べても少ない報告数であった。性別は男性42.6%，女性57.4%で、女性の報告数がやや多かった。年齢階級別では、20歳代が最も多かった（図52）。

2.5 基幹定点における月報告の感染症（表6，8）

i) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数が17.60人であり、前年（17.60人）と同数であった。年齢階級別では50歳代以上で81.8%を占めていた。

ii) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、定点あたり累積報告数が2.00人であり、前年（0人）から増加した。

iii) 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、定点あたり累積報告数が

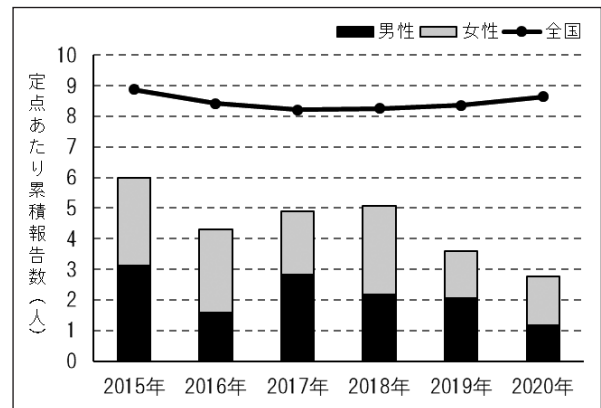


図51 淋菌感染症 年次別発生状況

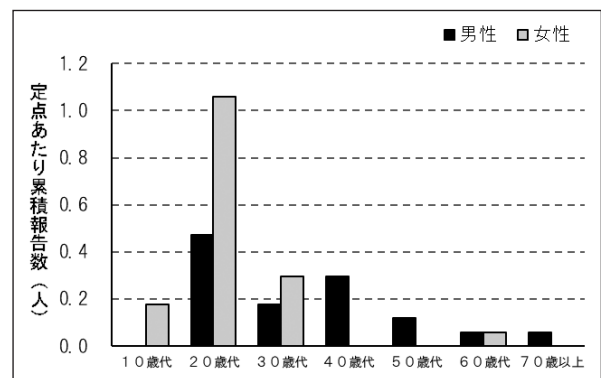


図52 淋菌感染症 年齢階級別発生状況

1.00人であり、前年（0.40人）から増加した。年齢階級別では70歳代以上で報告された。

3 まとめ

全数把握感染症のうち、結核の届出数は252例であり、2017年から漸減傾向にある。2019年までは300例以上の届出が続いていたが、2020年は過去5年間と比較して最も届出数が少なかった。年齢階級別では、60歳以上の高齢者が全体の67.1%を占めていた。50歳代以下では、20歳代が最も多かった。重症熱性血小板減少症候群は5月と、7月から10月にかけて届出があり、2013年に感染症法で全数把握疾患となってから最多の7例となった。つつが虫病は1月に1例、10月に2例の届出があり、2006年からの累計は24例となった。日本紅斑熱は11例の届出があり、2009年の県内初の届出以降最多となった。10月（4例）と7月及び8月（各3例ずつ）にかけて多く報告され、2009年からの累計は45例となった。これらマダニが媒介する感染症は増加傾向にあり、注意が必要である。レジオネラ症の届出数は78例であり、届出が急増した2018年（83例）と同程度となった。感染原因・経路は、水系感染が最も多く、うち入浴施設の利用（6例）が最も多く、加湿器の使用が2例で確認された。梅毒の届出数は162例であり、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出となった2019年（191例）よりは減少したが、依然として150例を超える状況が継続した。全国の梅毒患者の届出数は2010年以降増加傾向にあり、岡山県でも2014年以降年々増加してきた。全国と比較しても届出数の増加が著しく、2019年に続き、2020年も人口100万人あたりの報告数で全国3位の報告数となった。特に若年女性を中心に今後の発生動向に十分注意する必要がある。

定点把握感染症に関して、2019/20年シーズンのインフルエンザは、過去5シーズンと比較して最も少なかった。警報発令基準の30.00人を超過することなく患者数は減少に転じたが、警報発令に至らなかったのは、2010/11年シーズン以来9シーズンぶりのことであった。全国の流行状況とほぼ同様の推移であった。

定点把握感染症のうち、小児科・内科・眼科・基幹定点については、突発性発しんを除き例年と比較して定点あたり報告数が減少した（突発性発しんは、年ごとの報告数の変動が小さいことから、小児科定点報告が安定的に運用されていることを示す指標とみなされている）。2020年においても他の小児科定点把握疾患は減少したが、突発性発しんは一定の報告があったことから、感染

症発生動向調査の精度が一定程度維持されていたことが示唆された⁶⁾。特に感染性胃腸炎については毎年冬季に「食中毒（ノロウイルス）注意報」が発令されると「感染性胃腸炎週報」を作成して、県民に対して注意喚起を行っていたが、2019-20年においては注意報が発令されなかった。このことは、例年と大きく異なる状況であった。他方、性感染症定点においては、前年から同等か増加したのもあった。新型コロナウイルス感染症流行下で感染防止対策が徹底されたことで飛沫・接触感染が感染経路の中心である感染症は流行がある程度抑制されたが、梅毒を始めとする性的接触が感染経路の中心である性感染症は、社会生活の変化の影響も受けにくく、感染拡大防止に係るアプローチを要するものと考えられる。

前述のとおり、2020年は新型コロナウイルス感染症の流行があり、感染症の発生状況が例年と異なる様相を示した。また、全数把握対象疾患の「急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）」の症例からライノウイルスが検出されたが、2020年の新型コロナウイルス感染症流行下で、10歳未満の小児のライノウイルス感染症リスクの上昇が報告される⁷⁾等、新たな情報ももたらされる状況が想定される。

今後も引き続き、岡山県感染症情報センターでは、県内の感染症情報の収集・分析を迅速に行い、全国の感染症発生動向にも注意を払いながら、感染症対策の一助となるよう広く情報発信をしていきたい。

表1 感染症法に基づく届出対象感染症（2020年）

1. 全数把握感染症:全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。) (5) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。) (6) 鳥インフルエンザ(H5N1) (7) 鳥インフルエンザ(H7N9)</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) コレラ (2) 細菌性赤痢 (3) 腸管出血性大腸菌感染症 (4) 腸チフス (5) パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E型肝炎 (2) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む) (3) A型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) 黄熱 (6) オウム病 (7) オムスク出血熱 (8) 回帰熱 (9) キヤサヌル森林病 (10) Q熱 (11) 狂犬病 (12) コクシジオイデス症 (13) サル痘 (14) ジカウイルス感染症 (15) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。) (16) 腎症候性出血熱 (17) 西部ウマ脳炎 (18) ダニ媒介脳炎 (19) 炭疽 (20) チクングニア熱 (21) つつが虫病 (22) デング熱 (23) 東部ウマ脳炎 (24) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く。) (25) ニパウイルス感染症 (26) 日本紅斑熱 (27) 日本脳炎 (28) ハンタウイルス肺症候群 (29) Bウイルス病 (30) 鼻疽 (31) ブルセラ症 (32) ベネズエラウマ脳炎 (33) ヘンドラウイルス感染症 (34) 発しんチフス (35) ボツリヌス症 (36) マラリア (37) 野兎病 (38) ライム病 (39) リッサウイルス感染症 (40) リフトバレー熱 (41) 類鼻疽 (42) レジオネラ症 (43) レプトスピラ症 (44) ロッキー山紅斑熱</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7日以内に届出 (侵襲性髄膜炎菌感染症, 風しんおよび麻しんは直ちに届出)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) (3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (4) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。) (5) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) (6) クリプトスポリジウム症 (7) クロイツフェルト・ヤコブ病 (8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (9) 後天性免疫不全症候群 (10) ジアルジア症 (11) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (12) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (13) 侵襲性肺炎球菌感染症 (14) 水痘(入院例に限る。) (15) 先天性風しん症候群 (16) 梅毒 (17) 播種性クリプトコックス症 (18) 破傷風 (19) パイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (20) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (21) 百日咳 (22) 風しん (23) 麻しん (24) 薬剤耐性アシネトバクター感染症</p>
<p>【 指定感染症 】 直ちに届出</p> <p>新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。) 注)令和3年2月13日からは「新型インフルエンザ等感染症」に変更</p>

2. 定点把握感染症(五類感染症):指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

①週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) ヘルパンギーナ (10) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ定点 】</p> <p>(1) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1) 急性出血性結膜炎 (2) 流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌, 肺炎球菌, インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

②月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1) 性器クラミジア感染症 (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 (3) 尖圭コンジローマ (4) 淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

表2 全数把握感染症 月別患者発生状況

2020年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	短腸肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マダガスカル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	結核	252	19	21	25	28	20	19	35	19	20	15	16	15
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	102	4	2	2	2	1	22	16	8	21	22	2	-
四類感染症	腸チフス	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	E型肝炎	4	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オーストラリア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オーストラリア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オーストラリア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオシス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	7	-	-	-	-	1	-	1	2	1	2	-	-
	腎臓病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	つばねが	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	デング熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	11	-	-	-	-	1	-	3	3	-	4	-	-
	日本脳炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	B型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ペルーネズミ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンタウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発疹性チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マダガスカル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	レジオネラ症	78	5	16	8	6	2	5	14	8	1	4	5	4
	レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	五類感染症	アムニオニチス	17	2	3	3	3	-	1	3	-	-	-	1
ウイルス性肝炎(E・Aを除く)		10	-	-	-	-	1	4	2	1	-	1	1	-
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		32	6	4	2	3	-	3	1	2	4	2	3	2
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
急性脳炎*		6	2	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-
クリプトスポリジウム症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		7	2	-	-	1	-	1	2	-	-	1	-	-
後天性免疫不全症候群		15	3	1	3	-	2	1	-	-	-	1	2	2
ジエーラ症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		11	2	2	1	1	-	3	1	1	-	-	-	-
水痘(入院例)		5	1	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1
先天性風しん症候群		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
梅毒		162	17	12	21	4	20	20	13	9	16	13	9	8
播種性クリプトコッカス症		2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
破傷風		3	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	92	16	31	21	6	6	2	2	-	-	1	2	5	
麻疹	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

*ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表3 全数把握感染症 年齢別患者発生状況

2020年

		総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳～
一類感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	痘苗	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ベールズ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二類感染症	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	結核	252	6	2	29	16	13	17	19	48	72	30
	ジフテリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三類感染症	中東呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H7N9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コレラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	102	25	11	19	16	10	5	7	6	3	—
四類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	パルチフ	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
	E型肝炎	4	—	—	—	2	—	—	—	2	—	—
	ウエストナイル熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
五類感染症	エキノкокス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	黄熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オウムムス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	回帰熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六類感染症	Q熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	狂犬病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コクシジオリデス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	サルモネラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ジカウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七類感染症	重症熱性血小板減少症候群	7	—	—	—	—	—	1	1	4	—	1
	腎臓病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ダニ媒介脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八類感染症	チクングニア熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	つが虫熱	3	—	—	—	—	—	1	1	—	—	1
	デング熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H5N1)を除く	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九類感染症	ニバウウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	日本紅斑熱	11	—	—	—	—	—	—	4	3	4	—
	日本脳炎	2	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	B型肝炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十類感染症	鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ブルセラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発しんチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一類感染症	ボツリヌス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マラリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	野兎病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二類感染症	リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	類鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	レジオネラ症	78	—	—	1	—	6	11	28	20	11	1
	レプトスピラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ロッキーマン紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十三類感染症	アムニオニチス	17	—	—	—	—	4	8	2	3	—	—
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	10	—	—	3	1	3	2	1	—	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	32	—	—	—	—	—	4	2	12	8	6
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)*	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性脳炎	6	5	1	—	—	—	—	—	—	—	—
十四類感染症	クリプトスポリジウム症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	—	—	—	—	—	—	—	2	4	1
	後天性免疫不全症候群	15	—	—	6	1	6	1	1	—	—	—
	ジアルジア症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十五類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
	侵襲性髄膜炎菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	4	—	1	—	—	2	—	2	2	—
	水痘(入院例)	5	—	1	—	—	—	—	—	—	3	1
	先天性風しん症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十六類感染症	梅毒	162	1	16	43	40	33	21	7	1	—	—
	播種性クリプトコックス症	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—
	破傷風	3	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十七類感染症	百日咳	92	51	14	5	6	4	2	3	5	—	2
	風しん	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
	麻疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻しん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

*ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表4 定点把握対象感染症の発生状況

定点あたり報告数, 週別(小児科定点, インフルエンザ(小児科・内科)定点, 眼科定点, 基幹定点)

2020年

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)
総数	144.85	3.34	12.24	29.69	161.07	7.74	8.04	6.11	14.63	15.07	2.61	0.42	8.34	1.40	0.40	3.80	0.00	0.20
1週	15.24	0.17	0.28	0.52	3.61	0.17	—	0.24	0.04	—	—	—	—	0.20	—	0.20	—	—
2週	24.01	0.22	0.76	1.56	5.70	0.52	—	0.37	0.26	0.04	0.02	—	0.50	—	—	0.40	—	—
3週	22.61	0.13	0.43	1.87	6.41	0.20	0.04	0.44	0.22	—	0.04	—	0.17	—	—	0.20	—	—
4週	22.64	0.35	0.59	1.54	9.11	0.96	0.07	0.30	0.28	—	0.02	—	—	0.20	—	—	—	—
5週	16.86	0.19	0.54	1.13	8.22	0.19	0.06	0.52	0.15	0.04	0.06	—	0.25	0.20	—	—	—	—
6週	11.21	0.17	0.81	1.33	6.57	0.33	0.02	0.52	0.09	—	0.09	—	0.08	—	—	0.40	—	—
7週	8.27	0.24	0.52	1.00	6.24	0.15	0.04	0.31	0.17	—	0.04	—	—	—	0.20	0.20	—	0.20
8週	6.87	0.13	0.37	1.37	5.44	0.17	0.04	0.28	0.11	—	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
9週	6.54	0.07	0.46	1.06	4.89	0.20	0.02	0.26	0.24	0.04	0.07	0.08	0.08	—	—	0.40	—	—
10週	4.51	0.06	0.24	0.98	3.94	0.22	0.06	0.19	0.11	0.02	0.07	—	0.25	—	—	0.20	—	—
11週	2.24	0.06	0.28	1.28	3.06	0.26	0.02	0.33	0.24	0.04	0.04	0.08	0.08	—	—	0.40	—	—
12週	1.54	0.04	0.35	0.96	2.15	0.04	0.06	0.15	0.26	—	—	—	0.08	—	—	0.20	—	—
13週	0.98	0.04	0.24	0.89	3.30	0.13	—	0.39	0.17	—	0.04	—	0.33	—	—	—	—	—
14週	0.45	0.04	0.19	0.52	2.80	0.06	—	0.31	0.24	—	0.06	—	—	—	—	0.20	—	—
15週	0.25	—	0.11	0.46	2.39	0.13	0.07	0.28	0.20	—	0.04	—	—	—	—	0.40	—	—
16週	0.10	—	0.11	0.69	2.52	0.09	0.06	0.13	0.30	—	0.19	—	—	—	—	—	—	—
17週	0.01	0.02	0.17	0.69	2.13	0.02	—	0.13	0.39	0.02	0.15	—	0.25	0.20	—	0.20	—	—
18週	—	0.04	0.07	0.44	1.83	0.02	0.02	0.13	0.15	—	0.06	—	—	0.40	—	—	—	—
19週	—	0.02	0.06	0.26	0.78	0.06	0.07	0.09	0.13	—	0.02	—	—	—	—	—	—	—
20週	—	—	0.07	0.37	1.52	0.07	0.13	0.17	0.35	—	0.11	—	—	—	—	—	—	—
21週	—	—	0.06	0.35	1.57	0.04	0.09	0.11	0.31	0.04	0.04	—	—	—	—	—	—	—
22週	0.02	—	0.09	0.41	2.07	0.02	0.09	0.15	0.44	0.04	0.07	—	0.17	—	—	—	—	—
23週	—	—	0.06	0.43	2.02	0.06	0.09	—	0.30	—	0.07	—	0.17	—	—	—	—	—
24週	—	—	0.26	0.35	2.06	0.07	0.07	0.04	0.31	0.02	0.02	—	0.17	—	—	—	—	—
25週	—	—	0.19	0.22	2.39	0.13	0.09	0.02	0.46	0.02	0.09	—	—	—	—	—	—	—
26週	—	—	0.17	0.44	2.80	0.15	0.15	0.07	0.39	0.11	0.02	—	—	0.20	—	—	—	—
27週	—	—	0.31	0.52	2.65	0.15	0.07	—	0.44	0.02	0.07	—	—	—	—	—	—	—
28週	—	—	0.22	0.30	2.91	0.09	0.09	—	0.35	—	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—
29週	—	0.37	0.26	0.56	2.22	0.20	0.07	0.02	0.44	0.17	0.02	—	0.08	—	—	—	—	—
30週	—	—	0.24	0.24	2.26	0.06	0.20	0.02	0.31	0.15	0.06	—	0.17	—	—	—	—	—
31週	—	0.04	0.31	0.31	2.85	0.20	0.20	—	0.39	0.30	0.06	—	0.25	—	—	—	—	—
32週	—	—	0.17	0.35	2.06	0.11	0.57	—	0.30	0.70	—	—	0.25	—	—	—	—	—
33週	—	—	0.11	0.06	2.31	0.11	0.37	—	0.35	0.50	—	—	0.08	—	—	—	—	—
34週	—	—	0.26	0.09	2.13	0.04	0.26	—	0.30	0.80	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
35週	—	0.04	0.07	0.22	2.13	0.13	0.48	—	0.56	0.85	—	—	0.25	—	—	—	—	—
36週	—	0.22	0.15	0.17	2.70	0.04	0.52	—	0.35	1.22	0.06	—	0.42	—	0.20	—	—	—
37週	—	0.07	0.19	0.13	2.43	0.04	0.39	—	0.50	1.46	0.06	0.08	0.58	—	—	—	—	—
38週	—	0.07	0.09	0.17	2.35	0.11	0.63	—	0.30	1.46	0.04	—	0.50	—	—	0.20	—	—
39週	—	0.02	0.06	0.11	2.54	0.04	0.41	0.02	0.19	1.02	0.04	—	0.42	—	—	—	—	—
40週	0.01	0.11	0.07	0.20	2.20	0.13	0.39	0.04	0.33	1.30	0.06	—	0.33	—	—	—	—	—
41週	0.02	0.13	0.06	0.61	2.19	0.13	0.50	—	0.41	0.85	0.09	—	0.17	—	—	—	—	—
42週	—	0.06	—	0.30	2.17	0.11	0.26	—	0.28	0.85	0.02	—	0.33	—	—	—	—	—
43週	0.06	—	0.02	0.39	2.15	0.20	0.17	—	0.31	0.61	0.09	—	0.25	—	—	—	—	—
44週	0.02	—	0.17	0.35	2.07	0.19	0.07	0.06	0.24	0.50	0.06	0.08	0.25	—	—	—	—	—
45週	0.01	0.04	0.15	0.33	2.35	0.13	0.07	0.02	0.22	0.43	0.07	—	0.17	—	—	—	—	—
46週	0.05	0.02	0.11	0.35	2.54	0.19	0.07	0.02	0.22	0.26	0.06	—	0.33	—	—	—	—	—
47週	0.04	0.04	0.20	0.35	3.00	0.11	0.17	—	0.19	0.26	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
48週	0.04	—	0.30	0.31	2.96	0.17	0.09	—	0.24	0.28	0.06	—	0.17	—	—	—	—	—
49週	0.05	—	0.24	0.33	3.20	0.07	0.07	—	0.24	0.26	—	—	0.17	—	—	—	—	—
50週	0.02	—	0.35	0.56	2.87	0.15	0.17	—	0.17	0.13	0.06	—	—	—	—	—	—	—
51週	0.08	0.02	0.28	0.41	2.33	0.17	0.28	—	0.19	0.15	0.06	—	0.17	—	—	—	—	—
52週	0.05	0.11	0.17	0.67	2.52	0.11	0.09	—	0.30	0.13	—	0.08	—	—	—	0.20	—	—
53週	0.05	0.02	0.22	0.19	1.46	0.13	—	—	0.20	0.02	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—

表5 週報告 定点把握感染症（小児科定点、インフルエンザ（小児科・内科）定点、眼科定点、基幹定点）年齢階級別患者報告数

疾患名	年齢区分 小児科 眼科 基	合計	2020年																			
			～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
			～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
インフルエンザ	イ	12167	61	145	392	387	435	566	648	721	715	700	608	2068	581	619	938	1003	602	461	300	217
RSV感染症	小	180	32	38	58	23	12	6	2	3	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	小	661	3	65	260	100	63	38	37	32	13	7	11	19	4	9	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小	1603	5	16	88	89	152	200	257	208	140	109	79	164	20	76	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	小	8698	106	586	1279	833	651	622	521	500	405	376	316	1047	279	1177	-	-	-	-	-	-
水痘	小	418	4	11	31	30	22	40	48	46	28	40	35	69	2	12	-	-	-	-	-	-
手足口病	小	434	6	29	199	105	34	18	13	7	2	3	4	8	-	6	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	小	330	1	5	17	32	28	49	68	49	19	24	15	20	-	3	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	小	790	15	251	395	93	15	13	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	小	814	3	79	288	189	93	56	36	22	16	12	7	10	2	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	小	141	-	4	6	7	16	16	29	14	18	8	5	11	4	3	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	眼	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	眼	100	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4	15	21	22	4	6	20	-
細菌性髄膜炎	基	7	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	基	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	基	19	-	2	7	3	3	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	基	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	基	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表6 月報告 定点把握感染症（性感染症定点、基幹定点）月別、定点あたり報告数

疾患名		総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
性感染症定点	性器クラミジア 感染症	計	18.12	1.88	1.35	1.18	1.12	1.06	1.06	1.71	1.71	1.76	1.82	2.06	1.41
		男性	2.76	0.35	0.12	0.12	0.24	0.12	0.24	0.24	0.29	0.18	0.41	0.35	0.12
		女性	15.35	1.53	1.24	1.06	0.88	0.94	0.82	1.47	1.41	1.59	1.41	1.71	1.29
	性器ヘルペス ウイルス感染症	計	4.41	0.35	0.65	0.41	0.35	0.35	0.29	0.24	0.41	0.29	0.35	0.24	0.47
		男性	0.35	-	0.12	0.06	-	-	-	-	0.06	0.06	0.06	-	-
		女性	4.06	0.35	0.53	0.35	0.35	0.35	0.29	0.24	0.35	0.24	0.29	0.24	0.47
	尖圭 コンジローマ	計	1.65	0.06	0.24	-	0.18	0.12	0.06	0.18	0.35	-	0.12	0.24	0.12
		男性	0.47	-	-	-	0.18	0.06	0.06	-	0.12	-	0.06	-	-
		女性	1.18	0.06	0.24	-	-	0.06	-	0.18	0.24	-	0.06	0.24	0.12
	淋菌感染症	計	2.76	0.24	0.53	0.12	0.06	0.24	0.35	0.06	0.29	0.35	0.12	0.24	0.18
		男性	1.18	0.18	0.18	0.12	-	0.12	0.18	0.06	0.12	0.06	0.12	0.06	-
		女性	1.59	0.06	0.35	-	0.06	0.12	0.18	-	0.18	0.29	-	0.18	0.18
基幹定点	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	計	17.60	2.60	1.00	0.60	1.00	1.80	0.60	2.40	1.80	1.00	1.40	1.20	2.20
		男性	12.20	1.80	0.40	0.60	0.60	1.40	0.40	1.60	1.40	0.20	0.80	1.00	2.00
		女性	5.40	0.80	0.60	-	0.40	0.40	0.20	0.80	0.40	0.80	0.60	0.20	0.20
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	計	2.00	-	0.20	1.00	0.20	-	-	-	-	-	0.40	-	0.20
		男性	1.60	-	0.20	0.80	-	-	-	-	-	-	0.40	-	0.20
		女性	0.40	-	-	0.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	計	1.00	0.20	0.20	-	-	-	0.20	-	-	-	-	0.20	0.20
		男性	0.80	0.20	0.20	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	0.20
		女性	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-

表7 月報告 定点把握感染症（性感染症定点）年齢階級別患者報告数

2020年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計	
性器クラミジア感染症	計	—	—	—	—	6	47	103	61	34	33	12	9	1	1	—	1	308
	男性	—	—	—	—	4	16	7	5	5	2	4	3	—	—	—	1	47
	女性	—	—	—	—	2	31	96	56	29	31	8	6	1	1	—	—	261
性器ヘルペスウイルス感染症	計	—	—	—	—	3	13	8	7	10	4	7	1	4	6	4	8	75
	男性	—	—	—	—	—	1	—	—	2	—	—	—	—	1	1	1	6
	女性	—	—	—	—	3	12	8	7	8	4	7	1	4	5	3	7	69
尖圭コンジローマ	計	—	—	—	—	4	4	3	6	1	2	2	1	1	2	—	2	28
	男性	—	—	—	—	1	1	1	—	1	1	—	—	—	2	—	1	8
	女性	—	—	—	—	3	3	2	6	—	1	2	1	1	—	—	1	20
淋菌感染症	計	—	—	—	—	3	18	8	3	5	3	2	1	1	1	1	1	47
	男性	—	—	—	—	—	4	4	—	3	3	2	1	1	1	—	1	20
	女性	—	—	—	—	3	14	4	3	2	—	—	—	—	—	1	—	27

表8 月報告 定点把握感染症（基幹定点）年齢階級別患者報告数

2020年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	—	2	—	—	—	—	1	2	5	2	2	1	2	7	60	88
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	8	10
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5

文 献

- 厚生労働省：2020年 結核登録者情報調査年報集計結果について、
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00004.html (2021.9.8アクセス)
- 国立感染症研究所：日本脳炎 2007～2016年 (IASR Vol.38 p151-152：2017年8月号),
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/je-m/je-iasrtpc/6827-450t.html> (2021.7.16アクセス)
- 「エンテロウイルス等感染症を含む急性弛緩性麻痺・急性脳炎・脳症の原因究明に資する臨床疫学研究」研究班：急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き 平成30(2018)年4月,
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/AFP/AFP-guide.pdf> (2021.7.13アクセス)
- 国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html> (2021.7.19アクセス)
- 国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症流行下の国内百日咳の疫学のとめ (IASR Vol.42 p113-114：2021年6月号),

- <https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2540-related-articles/related-articles-496/10456-496r03.html> (2021.7.5アクセス)
- 国立感染症研究所：突発性発しん 2000～2020年 (IASR Vol.41 p211-212：2020年12月号),
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/exanthem-subitum-m/exanthem-subitum-iasrtpc/9350-490t.html> (2021.7.12アクセス)
 - Takashita E, Kawakami C, Momoki T, Saikura M, Shimizu K, et al. : Increased risk of rhinovirus infection in children during the coronavirus disease-19 pandemic, Influenza and Other Respiratory Viruses.2021;15:488-494

【資料】

岡山県における新型コロナウイルス感染症の発生状況について（2020年）
 COVID-19 Surveillance Reports in Okayama Prefecture (2020)

北村雅美, 木村英治, 望月 靖

KITAMURA Masami, KIMURA Hideharu, MOCHIZUKI Yasushi

[キーワード：新型コロナウイルス感染症, サーベイランス, クラスター]

[Key words : COVID-19, Epidemiological surveillance, Cluster]

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認されて以降、急速に世界的に流行が拡大した。2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」が宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあるとの表明がなされた¹⁾。日本国内では1月16日に初めて患者が確認され、その後幾度かの感染者の大規模な発生を経て、全国的な流行拡大が進んでいる。なお、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。）による当該感染症の位置づけとして、当初感染症法第14条第1項に基づく疑似症サーベイランスの対象とされたが、2月1日に感染症法第6条第8項に基づく指定感染症に指定された（その後、2021年2月13日に新型インフルエンザ等感染症に法的位置づけが変更されている。）。岡山県も流行に関して例外ではなく、多くの感染者が発生している。ここでは2020年の発生状況を概観する。

2 感染症発生動向調査

2.1 調査方法

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS：Health Center Real-time information-

sharing System on COVID-19）に報告された各関係機関からの感染者情報を元にした。全国のデータは厚生労働省のオープンデータ等を用い、岡山県のデータはHER-SYSの感染者情報に加えて県の公表資料を用い、解析を行った。

2.2 調査期間

2020年1月1日～12月31日とした。公表資料から作成したグラフは公表日を基準とした。なお、岡山県の死亡者については、2021年7月27日時点で、2020年中に死亡した者としてHER-SYSに入力されていたものをデータとして用いた（死亡年月日不明の者は除く。）。

3 結果

3.1 月別発生状況（公表資料より）

岡山県では、2020年3月22日に初めての新型コロナウイルス感染症患者の発生が公表された（発症日は3月17日、海外渡航歴あり。）。2020年中はその後増減を2回繰り返した。この間、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第20条に基づく全国一斉の臨時休業（小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校）の要請に基づき、岡山県においても3月2日から春季休業終了まで休業措置がとられた。また、岡山県に係る緊急事態宣言は、4月16日から5月14日まで適用された。10月以降感染者数が急増し、12月は最多となる764名が公表され、2020年の合計は1,363名であった。岡山県の月別発生状況（図1）

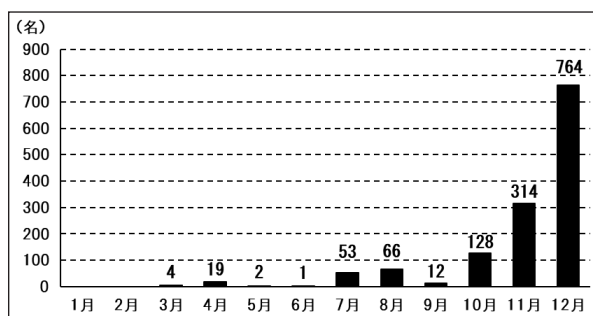


図1 月別発生状況（岡山県）

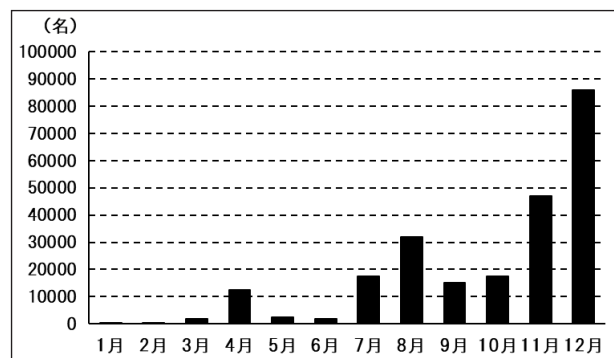


図2 月別発生状況（全国）

は、全国（図2）とほぼ同様の推移を示した。

3.2 性別、年齢階級別発生状況（公表資料より）

調査期間における岡山県の感染者の性別は、男性632名、女性647名、性別非公表84名であった。年齢階級別では、20歳代が290名で最も多く、次いで40歳代174名、30歳代172名、50歳代159名の順であった（図3）。全国の感染者の性別は、2021年1月6日18時時点までの状況を図4に示す。岡山県と全国の発生状況を比較すると、20歳代に次いで30～40歳代が多かったのは同様であったが、一方で岡山県では10歳未満が少なく、70歳代が多い傾向であった。

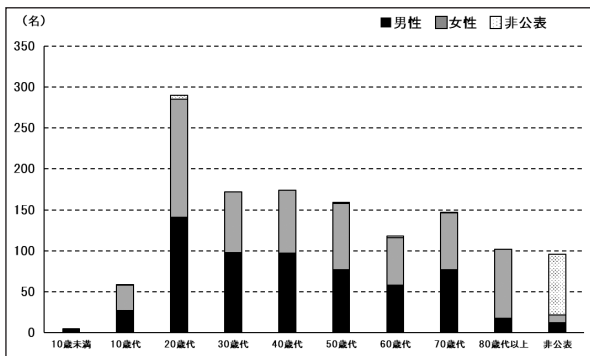


図3 年齢階級別発生状況（岡山県）

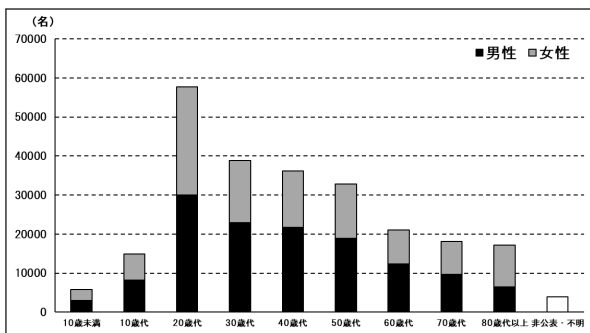


図4 年齢階級別発生状況（全国, 2021年1月6日18時時点）

3.3 流行曲線（公表資料より）

発症日を基準とした流行曲線（無症状病原体保有者を除く。）では、感染者数のピークは12月14日の33名、次いで12月30日の32名、12月11日の31名の順が多かった（図5）。また、診断日を基準とした流行曲線では、感染者数のピークは12月19日の111名が最も多かった（図6）。潜伏期間が1～14日、暴露から発症までは平均5日程度とされているので、12月初旬から中旬に感染した人が多かったと推察され、これは、岡山県におけるいわゆる「第3波」の流行の拡大時期に当たると考えられる。

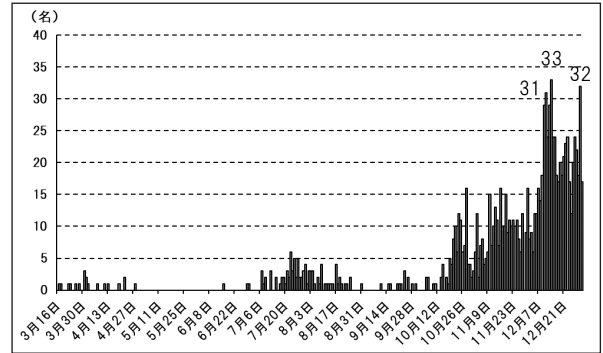


図5 流行曲線（発症日ベース）

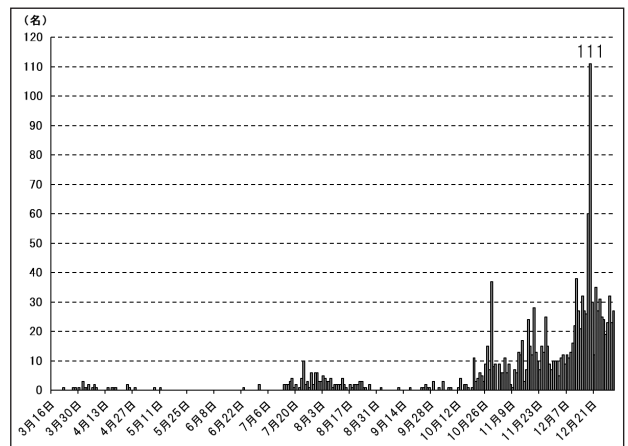


図6 流行曲線（診断日ベース）

3.4 クラスター種類別発生状況（公表資料より）

岡山県で発生したクラスターは、施設別では、「高齢者施設」の感染者数156名（発生数7件）が最も多く、次いで「会社・事業所」の87名（3件）、「接待を伴う飲食店」の82名（6件）の順であった（図7）。このうち、クラスター当たりの感染者数が最も多かったのは、12月に発生した「会社・事業所」の75名であった。また、週別では、第51週（12/14～12/20）の感染者数192名（8件）が、感染者数、発生件数ともに最も多かった（図8）。

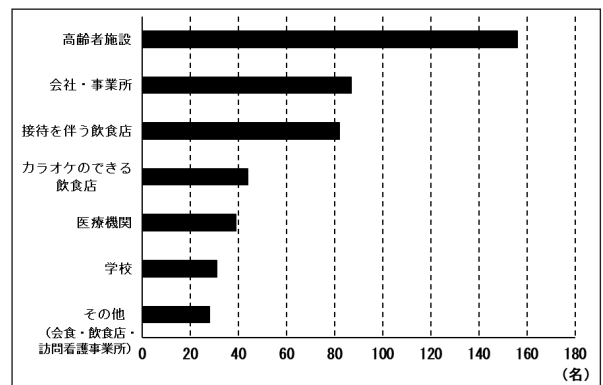


図7 クラスター発生状況（施設別）

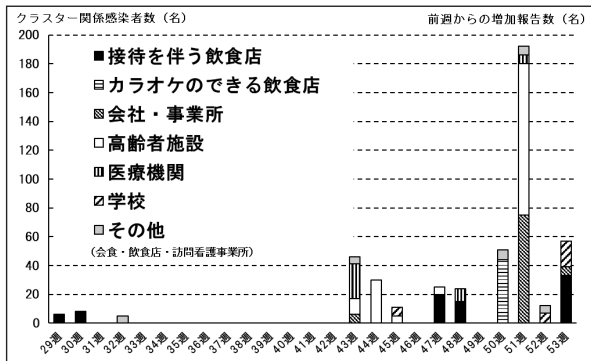


図8 週別・クラスター発生状況

3.5 年齢階級別死亡者割合

2020年中に死亡した者としてHER-SYSに入力されていた18名の年齢階級のグラフを図9に示す。全国については、2021年1月6日18時時点で厚生労働省が公開したデータに基づいて作成した年齢階級別死亡者数のグラフを図10に示す。死亡は、全国と同様、70歳代以上の高齢者に多く認められた。

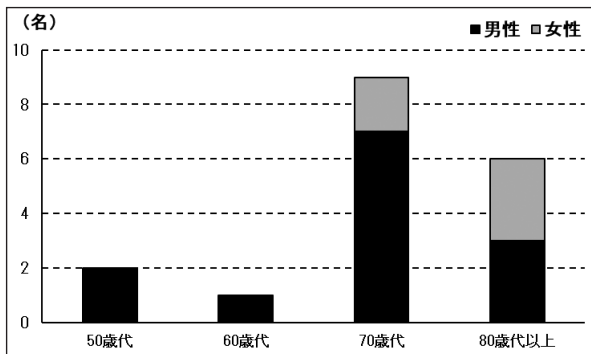


図9 年齢階級別死亡者数（岡山県，2021年7月21日時点でHER-SYSに入力があった2020年中の死亡者数）

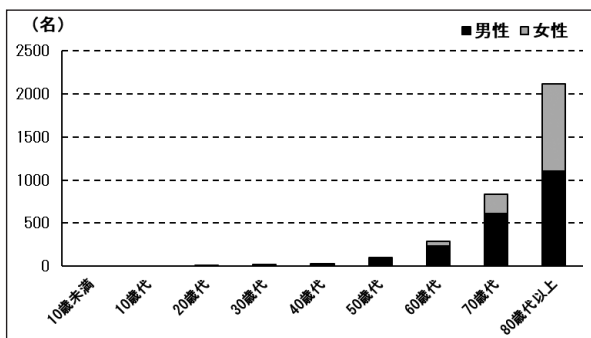


図10 年齢階級別死亡者数（全国，2021年1月6日18時時点）

3.6 変異株の発生

アルファ株（英国で最初に検出された変異株，VOC-202012/01）は、2020年12月上旬に英国で最初に報告された変異株である²⁾。イングランド南東部で確認され、

英国の感染者の急増の原因となり、その後世界各地で確認されることとなった。日本では2020年12月25日に、英国からの帰国者の空港検疫の検査陽性者から初めて検出された³⁾。なお、岡山県では、2021年2月上旬に発症した患者から初めてアルファ株が確認されたことから、2020年末までは県内への侵入はなかったものと考えられる⁴⁾。

4 まとめ

新型コロナウイルス感染症については、岡山県では2020年3月から感染者が発生し、その後は全国の流行状況に追隨する形で流行の波を経験することとなった。2020年末までは、従来株のみが流行しており、3密（密集・密閉・密接）の回避や、マスクの着用、手洗いなどの感染予防策を励行し、リスクの高い行動（大人数の飲食や、マスクなしのカラオケ等）を避けることで、ある程度は感染予防を図ることができていたと考えられる。しかし今後は、変異株の感染力の変化（デルタ株はアルファ株の1.5倍の感染力を有する可能性がある）も感染状況に影響を与えることを考慮に入れる必要があり、実際に2021年に入って以降はこれまでにない速さで感染が拡大している。

予防接種により、重症化予防効果が期待される。また、どの年齢層でも致死率が抑えられることが報告されており⁵⁾、今後も従来の感染予防策の徹底を図るとともに、広い年齢層への予防接種を推進することが重要である。

文 献

- 1) 国立感染症研究所：IDWR 2021年第29号<注目すべき感染症> 直近の新型コロナウイルス感染症およびRSウイルス感染症の状況，
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/10564-idwrc-2129c.html> (2021.8.17アクセス)
- 2) European Centre for Disease Prevention and Control.Threat Assessment Brief : Rapid increase of a SARS-CoV-2 variant with multiple spike protein mutations observed in the United Kingdom.December 20,2020.
<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/SARS-CoV-2-variant-multiple-spike-protein-mutations-United-Kingdom.pdf>. (2021.8.11アクセス)
- 3) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（変異株）

の患者等の発生について、

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15791.html
(2021.8.11 アクセス)

- 4) 岡山県：県内での新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生について、

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/703521_6300650_misc.pdf (2021.8.13 アクセス)

- 5) 厚生労働省：第47回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和3年8月11日）資料2-5
HER-SYSデータに基づく報告

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000818356.pdf> (2021.8.17 アクセス)